

そうせい

そうせい

全国曹洞宗青年会

2008.4

No.141

故 宮崎奕保大禪師貌下追悼特集

新連載

環境問題のツボ

新連載

あなたも選ばれる!? 「裁判員制度」のシステムをやさしく紹介

故宮崎奕保大禪師貌下追悼特集

宮崎禪師の御遷化にちなみ、かつて親近された御老師方にお話を伺いました。老古仏の行履の一端に触れ、改めて古を慕い、もつて弁道の資となればと念じます。

故宮崎禪師を偲んで

大本山永平寺副貫首

南澤 道人 老師

宮崎禪師様に縁をいただいたのは、昭和五十七年三月私が本山の副寺を拝命した時からであります。昭和五十六年の夏、大島監院老師が急に病のため、遷化された後、秦慧玉禪師様の達ての要請に応えられて宮崎奕保老師は本山監院としてお山に登られて居られました。

宮崎老師は秦禪師様のご遷化によって昭和六十年二月冬安居の解けるのを期に乞暇されたので約三年お仕えさせていただいたのです。

その後、私は丹羽禪師様から監院を拝命して平成四年七月に本山に登ったのですが、平成五年九月に丹羽禪師様のご遷化されたので宮崎禪師様が猊座に登られました。

監院の私は当然乞暇させていただくことを思いつて居りましたが、ご上山された宮崎禪師様は私を引き続き監院として勤めるようご下命になり、そこから平成十六年十月末日までお仕えすることになったのです。監院時代の宮崎禪師様は日中はお内寮で

新聞や図書を読んで居られることが常で、行持や来客の応対の外はお独りのことが多かったと思います。私は副寺ですから一ヶ月の集計を報告に上ったり、大きな特別の支出については決裁をいただかなければならないときには監院寮に行くわけです。

それで、決裁をいただくために、机の前に座って、お願いしますと言うと、それは置いといて、禪師様は四方山話など色々なさいました。少なくとも一時間くらいはお話を伺ったでしょう。禪師様にしてみれば、

お独りきりの時間でよいお相手に思われたのでしよう。

監院様の頃、こんなことがありました。

現在、永平寺の聖宝閣に納まっている、明の時代の大般若経ですが、紺紙金字の素晴らしいものであります。以前の持主の方がお年を召してきて、永平寺で引き取ってくれないかと尚事寮に手紙を寄せられました。滋賀まで行って、お会いして説明を受けて、いったん帰ったあと、今度は宮崎監院様も一緒に行きました。そうしましたら、



大本山永平寺提供

その持主の方は、監院様とすっかり話が合つて、お人柄に惚れ込んで、これなら、一も二もなく永平寺に差し上げましょうという話になりました。禪師様のお人柄の不思議な魅力を示すお話だと思います。

秦禪師様が遷化されて、宮崎監院様はお役を退かれましたが、最後の方は、監院様も禪師様みたいでした。禪師様の監院様で、禪師様が二人いるようなものでした。

昭和五十八年三月に、清水寺の管長大西良慶大和上が一〇九歳で示寂されて、秦禪師様が秉炬師、宮崎監院様は奠茶師、高木東京別院監院様が奠湯師を務められました。私も副寺位にいて、両班が一転語をすることになつたのですが、その前に、宮崎監院様が、もし何ならわしに見せてくれとおっしゃったので、恐る恐る持つていきましたら、可もなく、不可もなく何とか通つたようでした。

禪師様になられてから、二回中国にご一緒しましたが、二回目は、寧波の港に道元禪師入宋記念碑を建て、その除幕式に行かれたときでした。禪師様が九十八歳のときです。

その時、日本とも関係の深かった、中国仏教協会会長の趙樸初先生に表敬訪問するために北京を訪れたところ、一席設けてくださることになりました。それが、ちょうど十一月二十五日で、禪師様の誕生日でした。趙先生がスピーチをしてくださって、禪師様はあと十年経つたら茶寿ですから、私が茶寿のお祝いに日本に行きましよう

おっしゃってくださいました。趙先生は、その後三年くらいしてから亡くなられましたけれど、禅師様は茶寿まで命を保たれましたことは驚きと云うべきご寿命でした。

平成十四年が大遠忌だったわけですが、大遠忌は、だいたい十年くらい前から計画を始めます。準備のために、禅師様は、納経塔をご寄進してくださいました。

それから、道元禅師様の生誕八百年記念事業ですが、永平寺としては、寂光苑がとにかく殺風景だったものだから、何とかしたいと思っていたわけですが、七堂伽藍だけでなく、一般の方も気軽にお参りできる場所が欲しいなと思っていたわけですが、寂光苑の整備について、禅師様は何もおっしゃいませんでしたが、落慶の前に見えられたとき、「道元禅師様もお喜びになつておられるだろうなあ」とおっしゃいました。何も言っておられなくても認めてくださったのかなと思いました。

接賓も、出来たときに、「これは不老閣より立派にできたなあ」とおっしゃいました。けれど、最後に、「まあ、大本山の衆寮だからいいだろう」と言ってくださいました。

大遠忌も御生誕八百年事業も、大事業がみならず運んでいったのも不思議で仕方ないのですが、禅師様の偉大なお力だったのだなど、今になってみるとつくづく思います。

禅師様は、一月五日に御遷化されたわけですが、その前日に、閣行さんの手をグツと握られたのです。こんなお力があつたのかというくらい強い力だったそうです。

そして、五日の朝、閣行さんは、何か禅師様から大きな声で呼ばれたような気がして、お伺いしたら、もう息を引き取っておられたそうです。昨年十一月末までご公務

とご親化につとめられて、本当に天寿を全うされたと思います。

私は早くに親を亡くして、見送ることができませんでした。副寺時代は秦禅師様、監院になつてからは丹羽禅師様、宮崎禅師様と三代の禅師様をお見送りすることになったのは親不孝を重ねたその代わりといえますか、私の定めだったのかなと思っております。

(この文章は、南澤老師へのインタビューを基に構成しました)

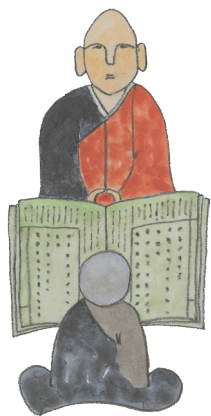
故宮崎禅師に参じて

宝慶寺専門僧堂堂長

田中 真海 老師

宮崎禅師との初相見は、禅師様がご本山の後堂に就かれた昭和四十年の秋です。その時、私は殿行をしておりました。それ以来、昭和四十三年の秋に乞暇されるまで、丸三年間お世話になりました。

後堂をなさつておられた頃、禅師様は必ず作務に出られました。そして雲水によく話をされました。分かっても分からなくとも、法の話を中心に、毛穴から染み込むように指導されました。それはもう率先垂範、慈悲から出てくる愛語の展開でした。その頃は、とにかく禅師様とお話しさせ



ていたきたくて、一年に二百回くらい参師聞法しました。ですから、三年間で六百回くらい行きましたねえ。しかも、口占されたことを質問の中心にしてほとんど私が喋っていました。禅師様は黙つてうんうんと聞いておられました。月二回の小参にも必ず出ました。二年半ほど経つた時に、もう喋ることがなくなつたんですよ。それで黙っていたら、「うん、蚕は糸を全部吐き出したら透明になるんだよ」とおっしゃって、それから、お願いして『永平広録』を禅師様に読んでいただきました。三日に空けずに禅師様のところに通つたのですが、嫌な顔一つされずに、いつも「ああ、よしよし」と言つて、ずっと受け入れて下さつたのです。

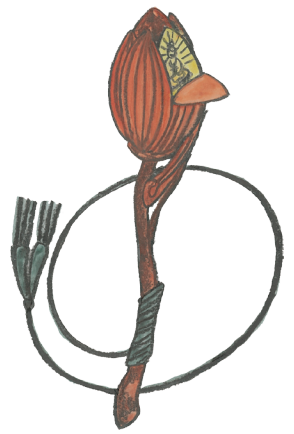
後堂になられて二年目頃だったでしょう。私が禅師様の御自坊の福田寺に参りまして、朝起きたときのことです。本堂に出て行こうと思つたら、禅師様が、布団の上で、敷布団はそのまま、掛布団は畳んで坐禅をなさつていたんですね。それで、私も坐禅させていただき、時どつて朝課をして、その間にお弟子さんが粥を作つていて、三人で展鉢をしたのですよ。本山の外では、もう少し楽にしていらつしやるかなと思つていたら、御自坊に帰つてからも展鉢をしていらつしやつたんですね。

禅師様は十一歳で得度されているでしょう。そして、お師匠様が非常に厳格な方でしたから、行持が身につけておられました。ホテルに泊まられても、部屋で坐禅しておられたんですね。そして朝課をして、応量器は使わなくても丁寧に食事なさつていました。まさに不離叢林でした。どこへ行かれても、そこが叢林になるんです。

禅師様は、若い時にタバコを飲むようになって、なかなか止められずに、法友三人と話し合つて、タバコを吸えば相互に罰金を取り合うことを約束しましたが、三人とも吸つていました。それで、御本師が遷化された機会に、御自坊の本尊様に「こんどタバコを吸えば命を差し上げます」と誓つて止めたよと申されました。自己を律するに生命懸けて功夫してこられたのを伺いまして、背筋の凍る思いがしたものです。後に禅師になられた頃には、清濁併せ飲む、ありがたいう方になつておられました。

平成五年の九月に七十八世禅師として上山されたわけですが、しばらくして、ご挨拶に伺つたとき、こう言われたんですね。「柄はなあ、九十三歳で禅師になつた。年齢的には遅い就任であるが、禅師になるための運動は一切しなかつた」と。後堂になるための運動、監院になるための運動もなされなかつたのです。縁に随つてこの生を渡られた凄いな方だと思います。洞山大師がおっしゃられた「名利を求めず、榮を求めず。唯だ縁に随つてこの生を渡る」というお言葉にぴつたりのところを生きてくれたんですね。

私自身のことになります。永平寺の単頭を務めるに当たつて、ある老師から「ご本山でお前一人ぐらい鬼になれ」と言われました。ですから、僧堂では、とにかく寝ている雲水に警策を行じて、しつかり坐れとやつたんですね。私が一生懸命行じていると、禅師様も猊下位にいて、寝ている雲水を点検しておられてね、あの雲水を起こせと、目と手で指図するんですね。私より鬼だなあと思いましたね。雲柄は若いうちに、鉄は熱いうちに、という気持ちをお持ちだったんですね。



叢林のような形をとる様にし、大衆威神力をいただく様に功夫することです。本當の苦勞のしがいのあるこの道を一步一歩あるく種播きにより、必ず法の花が咲くでしょう。

(この文章は、田中老師へのインタビューを基に構成しました。文責…編集子)

掛け替えない日々

埼玉県鳳林寺住職

伊藤 隆慶 宗師

平成八年二月に、禅師様に呼ばれて、宝慶寺の住職になれと言われました。迷いましたが、私自身の発心の道場であるご縁を尊んで、受けさせていただけようと思つて挨拶に伺いました。「このような若輩者ですが、受けさせていただけます」と言つたら、こうおっしゃるんです。「いや、宗門人は、高祖様が五十四歳で遷化なさつておられるのだから、五十四歳過ぎたら、おだてに乗れ」と。うまいことをおっしゃるなと思つてね。その一言が私の心を楽にしました。ちゃんと人のことを見ておられて、押さえるべきところは押さえておられるんですね。禅師様は、十四歳のときに、日置禅師から「坐禅坊主になれよ」と言われたというんです。それから九十四年間、坐禅一筋に生きてこられたわけですが、その出会いでしょうね。人との出会いが人を変えていくんでしょうね。

禅師様は、いつも若い人を育てるといふ思いをもってやつてこられました。若い皆さまには、私が参じさせていたただいた上から申し上げますと、僧堂修行をおりても坐禅を続け、生活全般にわたり、只管打坐の展開として、あらゆるところで縁に随つて功夫すると共に、善知識に参師聞法する機会を多く持つようにすることですね。また人間というものは弱いものですから、不離

しそうにおつしやられ、行者の心構えをご教授くださいました。以後、不老閣において数々の心得を学ぶこととなります。

例えば「お茶をお入れいたしましたしうか？」と申せば途端に「この横着者ノ」となる。もし親切心をもつての言葉であれば、まずお茶を入れ「お茶をお持ちいたしました」となるわけであると。故禅師さまは横着をもつとも嫌われ、何事においても自分自身に厳しく、身を以つてお示しになるお方でしたから、我々行者もまず体を動かすといつた毎日。けれども、行者がどんなに全力で走つて行くも追いつくことはできず、先回りなどは不可能に近い。そんな日常にあつて、叱られつものどうにか公務を勤められたのは、中村老師が常々「我々、役寮のことはどうでもいい。禅師さまのことを第一に考えなさい」とおつしやつて下さつたからに他なりません。とにかく、その頃の閣内には故禅師さまに叱られてこそ一人前という雰囲気横溢していました。

「食事が取れるようになれば退院出来るよ」というお話を中村侍局長よりうかがい、禅師さまが再びお元氣になられるよう、恐れながらその励ましの一端にでも成りうればと三應会（元閣行の念）にて、福寿無量諷経を計画し相談がまとまつたのが昨年の暮。しかしながら思い及ばず、年明けの一月五日の早朝に御遷化の知らせを受け、耳を疑う思いで札幌・中央寺に向かいました。

故宮崎禅師さまを偲びつつ振り返つてみるに、軟弱に育つた自分が今までの人生の中で一番叱られた、しかし非常に充実した尊くも掛け替えない日々であつたと実感いたします。

平成五年の秋、ご就任された直後に閣行（不老閣行者）の配役をいただいた自分が内寮にお茶をお持ちした時の事。「声が小さいノ」いきなり叱られて落ち込んでいますと、当時侍者の中村典篤老師と三重県養泉寺の釜田隆文老師、そして中央寺（副貫首時代）より随身の日比英儀老師のお三方が「おつ、もう怒られたかノ」と嬉

しそうにおつしやられ、行者の心構えをご教授くださいました。以後、不老閣において数々の心得を学ぶこととなります。

例えば「お茶をお入れいたしましたしうか？」と申せば途端に「この横着者ノ」となる。もし親切心をもつての言葉であれば、まずお茶を入れ「お茶をお持ちいたしました」となるわけであると。故禅師さまは横着をもつとも嫌われ、何事においても自分自身に厳しく、身を以つてお示しになるお方でしたから、我々行者もまず体を動かすといつた毎日。けれども、行者がどんなに全力で走つて行くも追いつくことはできず、先回りなどは不可能に近い。そんな日常にあつて、叱られつものどうにか公務を勤められたのは、中村老師が常々「我々、役寮のことはどうでもいい。禅師さまのことを第一に考えなさい」とおつしやつて下さつたからに他なりません。とにかく、その頃の閣内には故禅師さまに叱られてこそ一人前という雰囲気横溢していました。

その後、侍香の配役を頂戴してからは、ある時は親しく御訓戒をお示し下さり、またある時はユーモアを交えながら貴重な思い出をお話下さいましたが、お叱りを受けることは日常茶飯事でした。熱海出張所に滞在中、朝課を故禅師さまと二人で勤めた時、最初から最後まで睨みつけておいででした。どうされたのかと思つたら、朝課が終わると間髪いれずに「木魚の音がわるいんやノ」と一喝。「木魚はこういうふうになつて教えていただいた事もありました。そんな厳格な故禅師さまのお傍に必死の思いで付かせていただいた四年余り。乞暇の折に、甲斐の祖暁さまの詠われた七言絶句の色紙を頂戴いたしました。



幾逢打著旧瘡癩
 (幾たびか打著に逢うては旧瘡癩なり)
 追憶往時毛骨寒
 (往時を追憶すれば毛骨寒し)
 快活却生徒痛処
 (快活は却つて痛処従り生ず)
 翻思當昔棒頭寬
 (翻つて思ふ當昔棒頭の寬なるを)

この色紙を眺めるたびに故禅師さまの真心をあらためて痛感し、心から感謝すると同時に、今となつてはもう二度と叱つていただけない寂しさに胸が痛くなる思いがいたします。

故禅師さまが幼き頃よりお仕えされたご本師、小塩闍童大和尚さまは、決して笑顔をお見せにならないほど峻厳であられたそうです。故禅師さまは、ご本師さまの矍鑠とした威厳をそのままに、我々若き修行僧にも全身全霊を以つてお示し下されたのでしよう。

狛座に上られて十五年、この間にありがたくも配役をいただいた行者百十四名。故禅師さまのお徳を慕い、この真に尊い法縁を大切に想い結成された三應会において、今後も初代侍香の池田尊侯兄を中心に乳水和合し、少しでも故禅師さまのお教えに近づけるよう辨道精進する所存です。

稽首百拜

菜食健美

頂戴した忘れられないひとと言、

そして―回想録―

ここ数年間の対談を思い返すと、特に「食」に関する貴重な方がたと出会い、お話を頂戴した。その道の最前線でご活躍されている各氏を訪ね、それぞれの活動を通して真髓に迫る対談だったと思うと、今でもその時の情景が浮かんでくる。

「遊び心がなくっちゃ」

〔平成十七年夏〕



せせらぎの中で、池のせせらぎの中で、放生池のせせらぎの中で、村瀬さん(左)と筆者(右)

滋賀県、月心寺 住職 村瀬明道尼さんを訪ねてこんなひと言。「青年僧侶は元気がなくてはいけない。活発に活動していると、五十歳くらいには面白い和尚になるでしょう」と

関西弁で。声に張りがあり何とも凛々しく、調理場での厳しい眼、整理整頓された調理器具の様。「盛り付けに関しては？」と尋ねると「遊び心がなくっちゃ」と微笑む。また訪れたいと思うだけではなく、また誰かを連れて行きたいと思う不思議な空間であった。

村瀬師はかつてNHK朝の連続テレビ小説『ほんまもん』にて、女優野際陽子さんが演じる厳しい庵主さんのモデルともなった。

「食べることが一番ストリートに心に伝わる」

〔平成十八年春〕



森 伊スキア 佐藤初女さん

残雪がまぶしい山麓にて手料理をごちそうになり、実は厚かましく源泉かけ流しの温泉に入浴させていただき、さっぱりと気分爽快であった。癒されるとはこういう事かと。悩める人びとが集うイスキアという森の中で、食事(特に、おむすび)とやさしい会話をもって手を差し伸べてくれる女性、佐藤初女さん。キリスト教のカトリック信徒であるが、お話の中で仏教との共通点が多いのに気づく。

「食べることが一番ストリートに心に伝わる」とのひと言。私にもストリートに響いた。

食べる人がおいしいと感じれば、閉じ込めていた扉をゆっくり開いてくる。今まで胸に詰まっていたものが吐き出されるわけである。そこに新しいものが入って、自分の道が発見されていくのだと。帰り際、屋根に

吊るされた大きな鐘をならされて、手を振り見送られた快晴の帰路であった。

佐藤初女氏 著書『おむすびの祈り』他

「笑って白いご飯が食べられれば幸せ」

〔平成十九年春〕



山崎洋光さん

今現在、料理人として『典座教訓』を心得て調理している人はどのくらいいるであろうか。和食界を代表する「分とく山」

総料理長の野崎氏とは、初対面ではなかったことは後に知ることとなる対談であった。仕込みの最中に手を止めて、たいへんお忙しい中お付き合いいただいたのには感謝感激である。

野崎氏いわく「五観之偈にもあるように、食べる価値をわかっていると、ただお腹を充たせば良いのではないこと。これは日本にとつての教訓ですよ」と。加えて「国をあげて食育と言っているが、いつか必ず飢餓状態が来る」と、今後の日本の食事情を危惧する。

流石と思ったのは、この問題を解決できる思想は『典座教訓』に記されているとおっしゃったこと。この思想こそ、食育は料理だけではなく、生き方である。若い坊さん達には、自分の仕事(勤め)に(一番進んだ職業をしているのだと)誇りを持っていただきたいと激励も戴いた。確かに『典座教訓』は、無駄なものをそぎ落とした究極があると思う。

野崎氏と初対面でなかったことは、不思議な縁を感じた。名刺交換をすると私の師匠の名をズバリと言いつたのだ。驚きで

固まった私。かつて東京グランドホテル微笑庵、現在の檀信徒会館にて一緒に台所に立ったとのこと。当時私は小学二年生、笑顔で問われた時、若かりし頃の野崎氏の顔が次第に思い浮かび、最後にはお互い覚えていたのにはびっくりであった。

「分とく山」 港区南麻布五―一―五
電話〇三―五七八九―三八三八

今年度は、あえて菜食料理

以上、回想録として振り返ったが、貴重な体験を思い出してしまいいこんでいては寂しい。旨い食べ物を作る人はたくさんいる。元気に健康でいるためには、皆それぞれ食生活での「工夫」があるはずである。これと決め付けずに、身体に良く、なおかつ身体にやさしい菜食料理にあえて取り組んでみようと思う。日本のみならず、広く世界の菜食事情に視野を広げて、実際に私が、見て聞いた一品を再現して調理し、身体に良いものはどんどん取り入れ、僅かかもしれないが、健康体を持続するヒントとしてみらいたい。

文 白澤 雪俊(しらさわ せつしゅん)

昭和四十五年、青森県弘前市生まれ。十八歳で永平寺別院に安居修行しながら、駒澤短期大学(仏教科)に学ぶ。卒業後一年間東京都港区の青松寺に隨身(住職にお任せし学ぶ修行僧)として過ごした後、福井県曹洞宗大本山永平寺にて、七年間安居修行をする。この七年間、約三年間を典座寮に配役される。永平寺送行後、大本山永平寺東京別院長谷寺副典として再安居。現在、青森県弘前市普門院副住職として師匠を補佐する傍ら、精進料理に関する講演などの布教活動に務める。第十七期全国曹洞宗青年会青少年教化委員会副委員長。著書「身体にやさしい料理をつくる」(二冊)「ホームペーシアドレス」

http://www6.ocn.ne.jp/~yamakan/

02 故 宮崎奕保大禪師猯下追悼特集

・〈回想録〉南澤道人副貫首老師／田中真海老師／伊藤隆慶宗師

05 菜食健美 「頂戴した忘れられないひと言、そして ― 回想録 ―」

07 《全曹青インフォメーション》

・仏法興隆花まつり千僧法要20周年記念法要開催案内

・平成20年度定期総会開催案内

・「僧侶の知らない世界～僧侶のみてない葬儀のすべて～」

― 四国曹青管区大会報告 ―

・「自他の苦悩を傾聴する」傾聴研修会 ― ボランティア委員会研修会報告 ―

・「お坊さんとふれあおう」 ― 青少年教化委員会アンケート集計結果 ―

・総務委員会紹介

・賛助会員御芳名

・曹洞ユース ― 千葉県曹洞宗青年会 ―

15 そうとう衆列伝 ― ひろかわこうぜん 広川弘禅 ―

新連載

16 環境問題のツボ

環境問題の現状とその捉え方

18 「禅」知識まんだら2 ― 無常を観る瞑想 ―

新連載

20 あなたも選ばれる!? 「裁判員制度」のシステムをやさしく紹介

21 寺族のテラス ― お父さんから選ばれた ―

22 そうせいサロン

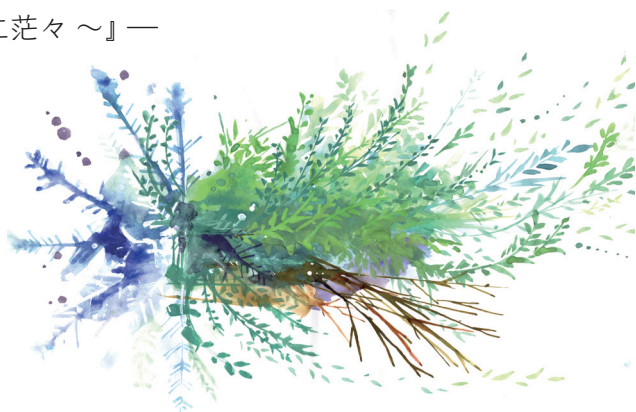
23 ネットで愉しむ禅籍サーフィン ― 『大江茫々～』 ―

24 あまみずのダイアログ③

― 「遺族外来」のある病院 前編 ―

26 曹洞宗のお袈裟に学ぶ

― 肖像画よりみた掛絡 ―



千僧法要20周年記念法要開催のお知らせ

全日本仏教青年会主催事業として、これまで開催されてきました千僧法要ですが、本年の開催で20周年となります。これまで全曹青が開催の中核となり、差定配役を含め全面的にサポートしてまいりました。

平時は、全曹青執行部、特に法式委員会が担当となり、告知も限られたものでありましたが、20周年を迎えるにあたり、各曹青会の御協力のもと執り行う事と相成りましたので、ここにご案内いたします。

本年は、来る11月に禅文化学林併催で再度千僧法要の開催を計画しているところでもあります。そのプレ法要という意味合いにおいても、皆さまに御協力いただくことを切に希望するところがございます。

☆どうぞ、多数の方がたのご参加をお待ちしております。

開催日時：平成20年4月26日(土) 午後1時より

開催場所：奈良県 東大寺大仏殿

参加費：法要 ¥1,000- 懇親会 ¥10,000- (奈良ロイヤルホテル会場)

お申込締切日：4月10日(木)

お申し込み方法：各曹青会窓口よりお願いいたします。

威 儀：黒衣 塔袈裟(木蘭)

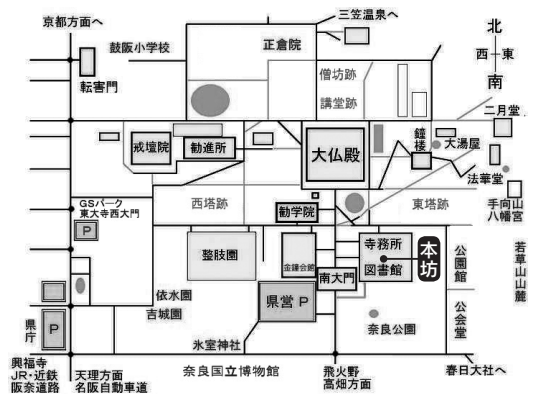
【東大寺千僧法要プログラム】

- 10:30 集合・アショカピラー掃除
- 12:40 本坊出発
- 13:00 大仏殿千僧法要
- 14:00 アショカピラーでの法要
- 14:30 花の種配り
- 15:00 本坊着
- 16:00 20周年式典・レセプション開始
- 18:00 閉会

東大寺「花まつり千僧法要」

16年前の昭和63年4月26日、全日本仏教青年会、全国曹洞宗青年会、南都二六会主催により、海外僧を含めた全国各地の超宗派1,700名の僧侶が大仏殿に参集し、「花まつり千僧法要」が厳修されたのが始まりです。

その後、毎年4月26日には「青年仏教徒の日」として、大盧舎那佛の大悲による、仏法興隆、世界平和の実現を祈念した法要が営われています。



平成20年度 全国曹洞宗青年会総会開催のご案内

〈開催日時〉平成20年5月14日(水)～15日(木)

〈開催場所〉北海道札幌市札幌市中央区南6条西2丁目中央寺様

※札幌市営地下鉄東豊線「豊水すすきの」駅(JR札幌駅より2駅)6・7番出口から徒歩1分。
札幌駅よりタクシーにて10分。

〈総会プログラム〉

5月14日(水)

10:00 理事会引き続き執行部会

15:00 評議員会

17:00 中央研修会

「蝦夷錦—アイヌ文化の継承と発展—」

19:00 懇親会

会場：札幌ロイヤルホテル (中央寺様より徒歩10分)

5月15日(木)

10:00 開講式

10:30 総会

12:30 終了(予定)

※尚、プログラムは若干の変更がある場合がございます。

※懇親会以外は、全て中央寺様にて開催。

★出席のお申し込みについては、各都道府県・各所属青年会の評議員宛に所定の用紙を送付いたしますので、お取りまとめの上、本会事務局迄ご報告いただきますようお願いいたします。

☆多数のご参加・ご出席をお待ちしております☆

「僧侶の知らない世界」 〜僧侶のみてない葬儀のすべて〜

四国地区曹洞宗青年会（四国曹青）が主催する「四国曹青管区大会」が、去る一月二十一日（月）高知県高知市の葬祭会館「心月記」を会場に開催されました。

私たち僧侶にとって、もっとも大切な宗教儀式の一つである『葬儀』が、葬祭会館において行われることが多くなってきた近年、一昔前の自宅での『葬儀』に比べ、私



寺村葬儀社の方がたと予定時間を越えるほどの座談会となった

たち僧侶も葬儀全体にかかわることが減ってきました。疑問点や問題点を抱えたまま『葬儀』を執り行う青年僧侶も少なくありません。また、葬儀社・葬祭会館との意思疎通が十分にできておらず、互いに不満や違和感を持つたりする場合もあります。そこで、他宗派の青年僧侶との交流を深め、宗派の枠を超えて行事を積極的に進めている高知県仏教青年会（高知仏青）、および会場・講師等でお世話になる寺村葬儀社様のご協力を得て、大会テーマを「僧侶の知らない世界」〜僧侶のみてない葬儀のすべて〜と題し、『葬儀』にスポットをあてた大会を催すことにいたしました。

当日は、愛媛県東予地方が、十数年ぶりの大雪で高速道路が終日閉鎖するなど寒波に襲われましたが、高知市内はそれほどほどの影響はなく、定刻どおりに四国曹青の本土一真会長を導師に、仏祖諷経が厳修されました。会長による開会の挨拶など開会行事の後、寺村葬儀社様の白川氏等による「葬儀の説明・シミュレーション」と題する講演が行われました。氏は『葬儀』の現状を、受付から葬儀後のサポートといった全体の流れなどについてプロジェクトを使い、そして実際の位牌や天蓋などの道具を用いて、それぞれの解説をしていただきました。更に、当会員の一人に亡くなった方の役をしてもらい、病院等から搬送、湯灌、装束、

納棺などを実演いただきました。普段私たちが目にする前の光景に、参加者全員が身を乗り出して見入っていました。

休憩をはさみ、四国曹青・高知仏青・寺村葬儀社様の三者による座談会（ディスカッション）です。疑問に思っていたこと、さまざまな事例、互いに対する要望など参加者全員で話し合いました。以下に、一部をご紹介します。

○〈葬儀〉の時間〉曹洞宗は、高知県の他宗派に比べて若干長いようだ。寺村葬儀社様では、寺院の葬儀時間や住職の特徴などをデータベースにしており、そのご寺院の『葬儀』は、時間より早めに開式している。愛媛県内の一部の地域では、火葬にした後に『葬儀』をするため、時間の心配がありません。

○〈式中初七日（初願忌）の是非〉『葬儀』の後、すぐに初願忌を行うのが許されるのならば、大練忌（四十九日）・一周忌等を、当日にするのもいいのではないか。実際に、大練忌まで当日に行っている地域もある。開運忌・初願忌の読経を分けて行っている。寺院との打合せ前に、葬儀社が初願忌の日程を決めている場合がある。「本来であれば、七日毎に行うのですが…」などと十分に説明をした後に開始する。「施主の意向により…」などとアナウンスしてもらいたい開始する。

○〈枕経〉枕経と通夜を混同している葬儀社が多い。現在は、病院から会館に直行するケースが多いので、枕経ができない。

い。枕経に行くことと喜ばれる場合が多い。喪主家と打合せができる。

○〈寺村葬儀社様から各寺院へ〉葬儀社に指導をしてもらいたい。お布施の金額・法事の方法・焼香の方法などを聞かれることが多い。宗教者として「心のケア・悲観処理」を行ってほしい。

予定の時間を越えるほどの、白熱した意見が飛び交う討論会となりましたが、宗派や地域が違うため結論が出ない話題がほとんどでした。

しかし、この大会を通して他宗派や葬儀社の方がたの意見を聞き、視野が広がりました。

そして、『葬儀』の依頼や法事の相談を、まず葬儀社にする現実を目の当たりにして、私たち僧侶の説明不足、教化不足を痛感させられました。今回の大会では本音を徹底的に語り尽くすことまではできませんでしたが、ぜひもう一度開催したいと思えます。

四国地区曹洞宗青年会
事務局長 高木 一晃 合掌

【日程】	
午後一時三十分（受付）	〈開会行事〉
午後二時	一、仏祖諷経 二、会長挨拶（本土一真師） 三、来賓祝辞 四、日程説明
午後二時三十分（葬儀の説明・シミュレーション）	講師：寺村葬儀社 （葬儀の申し込みからアフターサービスまで）
午後四時	〈座談会・ディスカッション〉 四国曹青会員・高知仏青会員・葬儀社の三者による座談会
午後五時二十分（閉会行事）	一、閉会挨拶 二、事務連絡

「自他の苦悩を傾聴する」

傾聴研修会

ボランティア委員長 瀬田 啓道

日時…平成二十年一月二十八日(月) 午後一時～
 場所…宗務庁五階 研修道場
 講師…「子ども家庭教育フォーラム」代表 富田富士也 先生
 日程…午後一時～開講式
 午後一時半～研修会
 午後三時半～休憩
 午後三時四十分～研修会
 午後五時 閉講式
 参加者…管区理事九名、全曹青執行部十二名、石川県曹青より星野正親師、ボランティア委員会六名の計二十八名

傾聴研修会に先立ち、我われボランティア委員会としては「例えば、大規模災害が発生した被災地で、家屋や尊いご家族の命を一時にして失った方がたと接する時などを想定して、ご指導いただきたい」と、富田先生に打ち合わせの際にお願いした。先生は研修会の中で「世の中には理屈に合わないさまざまな不条理が生じる。さまざまな不条理の中で生きていく方がたと接していくには、自ら呼び水にならないければならない。そして不条理を受け入れ、不条理に対して無力な自分で向き合っていくかなければならない。愚直でもいい。OPEN MINDであれ」という言葉で、私

達の要望に応じていただいた。研修会は、先生の情熱あふれる講演の要所所に二人一組、または、四人一組となつてコミュニケーションワークが組み込まれた内容で、参加者各人がコミュニケーションする形式で行われた。おかげで、昼下がりにもかかわらず集中できた。常にボランティア活動をしていても「させていだいていく」という気持ちを忘れてはならない。謙虚さを忘れた情熱は、ただの押しつけ：一人一人の人格（パーソナリティ）に触れ、言葉だけでなく気持ちを聴くことの大切さを、改めて学ばせていただいた。

「お坊さんとふれあおう」

～しくろく精進料理～

アンケート集計結果

青少年教化委員会

〈実施日時〉

平成19年10月6日(土) 開催

参加者/生徒24名

平成19年12月1日(土) 開催

参加者/生徒6名・一般9名

〈実施場所〉

愛知高校

〈アンケート回答者数〉

生徒30名・一般6名 計36名

〈性別〉

男性 10名 生徒9名・一般1名

女性 26名 生徒21名・一般5名

☆以前に、「お坊さんと出会ったことはありませんか？」

はい…33名 いえ…2名 無回答…1名

☆「はい」を選んだ方はどこで出会いましたか？(複数回答可)

葬儀・法事…18名 お彼岸・お盆…8名
 それ以外…28名

(学校の一泊参禅会で永平寺にて・学校(学校の先生)にて・家の近所のお寺・父がお坊さん・法話・実家がお寺)

☆以前に「お坊さん」と聞いてどんな印象をお持ちでしたか？(複数回答可)

堅い、怖い、厳しい・まじめ・物静か、落ち着いている・無口で近寄りたがらない・規律正しい生活をしている・多種多様・禅の道に生きる人、かつこいい・永平寺・おもしろい・厳しい修行の中で輝かれた人・丸い頭で袈裟を着ているか、作務衣を着ている・普通の人の人

☆参加してどうでしたか？

とても楽しめた…25名・楽しめた…9名・ふつう…2名・楽しめなかった…0名・全然楽しめなかった…0名

☆お坊さんに親しめましたか？

とても親しめた…22名・親しめた…13名・どちらでもない…1名・親しめなかった…0名・全然親しめなかった…0名

☆今後、このような会があったら参加したいですか？

ぜひ参加したい…16名・参加したい…15名・どちらでもない…4名・絶対参加しない…1名

☆お坊さんの印象は以前とくらべて変わりましたか？

変わった…23名・変わらない…12名・無回答…1名

☆変わったをお選びいただいた方は具体的にどのようにかわりましたか？(複数回答可)

自分達と同じ感性や考え方をしていると感じた・フレンドリー・思ったより話しやすい、楽しい・やさしい・食べ物の大切さとか常識だけど、私たちが日頃忘れかけている大事なことをきちんと守っていて、すこく偉いと思った・お話が上手・変な方向に変わった・結構くだけている・人生相談などお話が出来ると思う・とてもきちんと対応してくださり、素晴らしい方がたばかり

〔所感〕

今回の精進料理講座を通して、お坊さんに対する近寄りがたかくなった感じが、親しみやすい・フレンドリーな方向へ概ね変わっていた。「人生相談などお話が出る」などの意見からは、お坊さんと参加者との信頼関係が深まり、距離感が縮まった事を意味する。人間は、他人とのふれあいや話をする事で認識を深め、お互いを理解するしかない。そのことを表している解答があった。それは「変な方向に変わった」だ。これは一見否定的に思われる。しかし、この企画の趣旨は、ふれあいを通じての活動により、今までの僧侶に対するイメージを変化させることが目標だった。まさに変な方向に変わったは、今回の講座によって変化を与えたことを意味しているだろう。

また、今後、このような会があったら参加したいですか？の質問には、ほとんどの方が参加したい意思を持っている。そのように、社会の求めに対して活動していく事も、僧侶の努めでもあるのではなからうか。そして今回、絵に描いたものではない、なまの变化を感じ取りながらふれあうことは、参加者のみならず僧侶側にも大きな影響を与え大変勉強になった。

この講座で、分かったことは「教化」は一方通行ではなく、相互に関連しあつて初めて「教化」になるということであり、ふれあう事の大切さを再認識した。

委員会紹介

総務委員会

総務委員会は、前身の総合企画事業研修委員会からの事業を継続しつつ、総務的役割を踏まえ、事務局・会計との連携を密接にとり、事務作業の効率化、各委員会事業の円滑運営を図ることを目的として活動しています。

◆花まつりキャンペーン

このキャンペーンは平成四年に「生きるための仏教、生きる支えとしての仏教」を前面に打ち出し、「弔事としての仏教法要ではなく、慶事としての仏教法要」として「花まつり」を掲げ、社団法人全国生花商協会とタイアップしてポスター、メッセーじカードの配布を行ったのが始まりです。毎年、実費頒布している「真心の種をまきましよう」と記した花の種、甘茶、三仏忌の説明をつけたセットは、阪神淡路大震災追悼法要において配布されたのが始まりとされています。

第十七期においても、この事業を継続し、新デザインのパッケージに三仏忌の説明文書を記載し、甘茶のティーパックと花の種、菩提樹の葉脈を詰めて、実費頒布します。詳細は、次ページに掲載しております。

◆禅文化学林の開催

禅文化学林は昭和五十三年十月二十三日、大本山總持寺において第一回目が開催されて以来、時代に即した形で催されています。近年では平成九年度の九州・

大分大会の開催以降、各管区の皆さまの協力の下、皆さまの幅広いナマの声を反映できるよう、全国各地での開催が主流となっております。

平成十九年度・禅文化学林は平成十九年十月十～十一日、いずも曹洞宗青年会の主幹で第三十回中国曹洞宗青年会大会とあわせ、島根県松江市において「いま、あえて生死（いのち）をく教育と宗教の対話に学ぶ」をテーマに開催されました。青少年による凶悪犯罪や自殺が後を絶たない現代社会において、私たち青年僧侶は、如何にして彼らに「いのち」の大切さを伝えていけば良いのか。私たちが同じ「教師」資格を持つ身として、一体何が出来るのかを考え、十日は第一部として松江市くびきメッセにおいて、基調講演の後、コーディネートに神仁師、講師に鳥山敏子氏、飯島恵道師をむかえディスカッションがこなわれました。また、翌十一日は同市ホテル一畑にて一日目の内容を踏まえて、参加者全員によるグループワークが行われました。

◆頒布物の管理・受注・発送

過去に発行された全曹青の頒布物の管理（データもしくは現物）、委員会から発行された頒布物の受注・発送業務を行っています。今期はかねてより再販の検討がなされてきた第十五期青少年教化委員会製作の

「ほとけさまの知恵袋」の受注を四月より開始いたします。詳細は本誌裏表紙をご覧ください。

◆曹洞宗報「そせい号外」への入稿

第十五期までは事務局が本庁への入稿を毎月行っていました。事務局業務軽減のため、第十六期より当委員会が担当することになりました。毎月発行ということで、比較的早く執行部の動向をお伝えできるよう、つとめてまいります。

◆活動報告集作成

平成十九～二十年度の各曹青会の活動内容を報告していただき、委員会でもまとめます。前期から冊子は作らず全曹青ホームページ「般若」宗侶専用ページにて紹介されているので今期も同様に「般若」にて掲載する予定です。

◆事務局業務の補佐

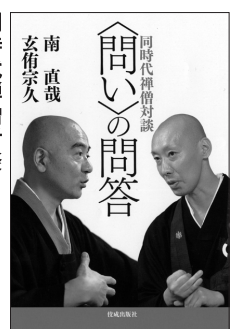
委員会の名称変更とともに新たに職務として加わりました。具体的には、評議員名簿の管理、評議員会案内状の発送・出欠確認、各曹青会名簿・管区大会関連書類・各委員会議事録の管理のほか、執行部会・理事会へ毎回委員二名が出向し、事務局庶務の補佐をしています。

◆今後の展望

総務委員会は、継続して行われる本会事業を中心として行うという他委員会とは異なる性質を持っています。諸先輩方が築きあげてきた伝統を継承しつつ、新しい可能性を求め、よりよいものを作り上げていきたいと考えております。

総務委員会委員長 森 如謙

http://www.kosei-shuppan.co.jp/ 倭成出版社 TEL.03(5385)2323 FAX.03(5385)2334 (税込)

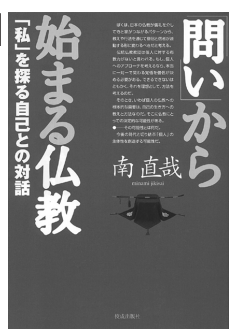


同時代禅僧対談

問いの問答

南直哉 玄侏宗久 ●1890円

同時代を共有する二人が、「僧侶」というあり方を論じたスリリングな対談。発売即重版。

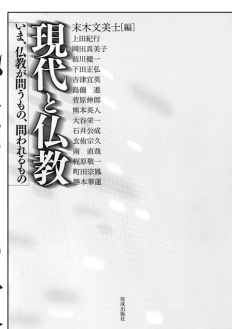


私を探る自己との対話

問いから始まる仏教

南直哉 ●1470円

硬直化した仏教理解に「自己再建の教え」という新たな命を吹き込む、実践的仏教書。



現代と仏教

いま仏教が問うもの、問われるもの

末木文美士「編」 ●2625円

複雑化する現代日本の諸問題を切り口に、社会参加仏教への新たな視座を提示する。

花まつりキャンペーン

ありがとう



▶表面デザイン

【お申し込み数量と費用】

一部一三〇円

(五〇部単位でお願いします)

【お申し込み方法】

①申込数量②原名・寺籍番号③寺院名
④名前⑤郵便番号・住所⑥電話番号を
ご記入の上、郵送・FAX・メールい
ずれかにてお申し込み下さい。

【お申し込み期限】

在庫が無くなり次第頒布を終了いたしま
す。

【お申し込み先】

【郵送】〒〇八八・一五一四

北海道厚岸郡浜中町霧多布

東四条一丁目三十三 祥雲寺内

加藤 勤也(総務委員)

【FAX】〇一五三・六二二・七三三

受付時間は《九時〜十八時》

【E-MAIL】

hana@sousei.gr.jp

または全曹青HP『般若』申し込みフォー
ムでも受け付けております。

【お届け方法】

着払いにてお届けします。



▶三仏忌の説明、花の種、
菩提樹の葉脈、甘茶ティーバッグ



▶パッケージ裏側
プラスチック包装紙に詰めてお届け

各委員 コメント

委員長・森

如謙

(曹洞宗岐阜県青年会)

より充実した魅力あ
る全曹青の活動の一
助となるよう、新た
な可能性を求めて進
んでいきたい。

副委員長・山根

宗信

(曹洞宗鳥取県青年会)

いつでも初心を忘れ
る事無く、驕らず、
ひとつずつハードル
を越え、皆と連携し、
一助に努めたい。

委員・藤原

孝徳

(北海道第一宗務所青年会)

ご縁をいただきまし
たので、限られた期
間ではありますが、
和合を大切にしまが
ら務めていきたいと
思います。

委員(庶務)・大久保

厚志

(曹洞宗岐阜県青年会)

二年間という限られ
た期間ですが、少し
でも皆さまのお役に
立てるようがんばら
ります。どうぞよろ
しくお願います。

委員(会計)・山澤

顕雄

(山形県曹洞宗青年会)

今年第十七期の半分
の一年を過ぎよう
としています。委員
の一員としてます
ます委員会内での役
割、並びに執行部との横の連携強化が出
来れば幸いと思います。

委員・加藤

勤也

(北海道第三宗務所青年会)

皆さまとの貴重なご
縁を大切に、確実か
つ着実な活動によつ
て会員諸師の笑顔が
つながるよう、微力
ながら尽力いたします。

委員・松澤

宗峰

(北海道第二宗務所青年会)

総務委員として働か
せていただく事にな
りました。皆さまの
足手まといにならない
ようがんばって
いきたいと思ひます。

1	佐賀県	宗龍寺様	595	長崎県第一	華藏寺様	359	大分県	報恩寺様	300	福岡県	城慶寺様	164	愛媛県	晋叟寺様	201	島根県第二	興源寺様	332	島根県第一	普音寺様	195	妙楽寺様	146	住雲寺様	127		
78	宝泉寺様	480	長崎県第二	龍光院様	313	海門寺様	158	能満寺様	253	喜久寺様	178	興禪寺様	109	高昌寺様	99	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
46	洞禪寺様	419	長崎県第二	雲興寺様	306	海門寺様	130	龍昌寺様	178	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
24	東向寺様	386	長崎県第二	城光院様	306	海門寺様	123	林秀庵様	178	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
8	西福寺様	359	長崎県第二	威徳院様	300	海門寺様	109	満泉寺様	158	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
129	華藏寺様	313	長崎県第二	龍光院様	306	海門寺様	108	福泉寺様	130	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
24	華藏寺様	306	長崎県第二	威徳院様	300	海門寺様	109	真蔵寺様	123	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
158	報恩寺様	253	長崎県第二	龍昌寺様	178	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
102	能満寺様	178	長崎県第二	林秀庵様	178	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
16	喜久寺様	158	長崎県第二	満泉寺様	130	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
福岡県	城慶寺様	164	長崎県第二	福泉寺様	130	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
113	西禪寺様	123	長崎県第二	真蔵寺様	123	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
42	興禪寺様	109	長崎県第二	源真寺様	108	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
14	安楽寺様	99	長崎県第二	天照寺様	108	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
1	高昌寺様	65	長崎県第二	柳原寺様	65	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
愛媛県	晋叟寺様	201	長崎県第二	福昌寺様	1	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
201	晋叟寺様	161	長崎県第二	慈眼寺様	206	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
161	大林寺様	159	長崎県第二	泉上寺様	174	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
159	源入寺様	93	長崎県第二	龍穩院様	171	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
93	法恩寺様	80	長崎県第二	清光寺様	168	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
80	長寿寺様	69	長崎県第二	萬持寺様	157	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
69	龍雲寺様	50	長崎県第二	茂林院様	142	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
50	妙岩寺様	17	長崎県第二	成林寺様	122	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
17	円光寺様	5	長崎県第二	安養寺様	87	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
島根県第二	地福寺様	5	長崎県第二	昌福寺様	81	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
332	興源寺様	269	長崎県第二	昌福寺様	81	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
269	観音寺様	231	長崎県第二	昌福寺様	81	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
231	岩瀧寺様	195	長崎県第二	昌福寺様	81	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
島根県第一	普音寺様	146	長崎県第二	昌福寺様	81	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
195	大祥寺様	159	長崎県第二	昌福寺様	81	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
146	妙楽寺様	127	長崎県第二	昌福寺様	81	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127
127	住雲寺様	127	長崎県第二	昌福寺様	81	喜久寺様	108	福泉寺様	109	天照寺様	108	興禪寺様	99	高昌寺様	65	地福寺様	50	観音寺様	269	岩瀧寺様	231	大祥寺様	159	妙楽寺様	146	住雲寺様	127

全国曹洞宗青年会の活動は
 皆様の賛助会費等によって
 支えられております
 この度も御協力頂き
 誠に有難うございました



千葉県 曹洞宗青年会

活動紹介

発 足…昭和四十三年
 会 員 数…八十四名
 会 長…新野利行
 副 会 長…児玉昌広・松崎秀規・戸田信也
 事務局長…四十澤承順
 会 計…畠山賢陀
 事務局員…庄司徳潤・房田清光・浅野太露

一、概要

千葉県曹洞宗青年会は、千葉県宗務所管内の十八歳以上四十歳以下の宗侶を会員として構成されています。

年間の定例行事は、総会・三仏忌・撰心・托鉢・親睦会・国内外の研修旅行などのほか、さまざまな内容の研修を行う毎月の定例会があります。

今期は「楽しく・仲良く・有意義に」をスローガンに、①参加者が充実感を得られるような行事内容、②会員相互の親睦と会としての結束を深める、③会として、個人として、社会とどう関わっていくか、といった事を念頭に置き、また、宗門が掲げる「人権・平和・環境」というテーマを、会の活動や会員個々の実生活にいかにか反映させていくか、と、言うことを考えながら諸行事を計画・実施しています。

二、委員会

【三仏忌実行委員会】

県内三地区（安房・上総・下総）から選出された三名の副会長が各地区の実行委員長となり、各仏忌の担当を決めて、それぞれ内容を企画。役を経験することを主目的とし、若手の会員を中心とした配役で行っています。

【研修委員会】

自己研鑽を中心とした対内的研修（Ⅱ修）を担当。法式、声明、法話を話したり書いたりする練習等の研修会を行っています。

【広報委員会】

年二回発行の会報誌「法灯」の編集と広報活動を担当。会の活動を内外にもっとご理解いただけるよう、今期は誌面の拡充に取り組んでいます。

【教化委員会】

布教教化やボランティアなど、実践的な対外活動（Ⅱ証）を担当。現代に生きる僧侶



稲作体験（稲刈り）

として、社会とどのように関わっていくかという観点の元、形に囚われない柔軟な活動を目指しています。

【環境委員会】

環境問題を考える活動を担当。今期は「稲作」に挑戦。田植えや稲刈り等を通じて、植物の生長や自然環境の変化に目を向け、自然の恵みのありがたさを再認識しようという企画です。次年度は田植えの準備段階から行う予定です。

三、その他の事業・研修

【HPの運営】

会の活動をより多くの方に知っていただくため、平成十三年度よりHPを開設。活動報告や行事予定、会員によるコラム等を掲載するほか、掲示板を設置して閲覧者からの意見や質問等に対応しています。

・HPアドレス <http://www.chisosai.jp/>

【梅花練習】

各自坊における布教活動の一端として梅花の活用を推進するため、毎月の定例会で約三分の梅花練習を実施。梅花未経験の会員には梅花を始めるきっかけとし、講師を務める梅花経験者の会員には指導練習の場として、双方の研修になるよう企画しました。また、今秋に開催される千葉県梅花流奉詠大会にも青年会として登壇する予定です。

【その他】

- 「撰心（年一回）、托鉢（千葉市・館山市）」
- 「国内研修旅行（今年度は九州地方）」
- 「海外研修旅行（今年度は中国）」
- 「障害者・高齢者体験学習」
- 「人間ドック」等、さまざまな行事を通して会員の親睦と研鑽を図っています。

▼托鉢（千葉市高德寺様にて）



▲国内研修旅行

（大本山永平寺出張所紹隆寺様にて）



以前、某代議士秘書を務める知人から「曹洞宗にはえらい豪快な坊さんがいたものだな」と言つて一枚の写真を見せられたことがあつた。それは、時の総理大臣である吉田茂を中央に据え、その傍らに池田隼人蔵相、同じく佐藤栄作郵政相といった、のちの首相経験者がずらり顔を揃える第三次吉田改造内閣の記念写真であつた。

「え、この中に曹洞宗のお坊さんがいるの？」と怪訝そうに見つめる私に対して、彼は有髪で口髭を蓄えた一人の恰幅の良い男性を指さした。

その人物こそ、吉田内閣で三度も農林大臣を務め、時の政権与党の幹事長と総務会長を歴任した広川弘禅その人であつた。

広川は、その政治歴から「農政の広川」と謳われ、吉田茂の懐刀として時の政界を席巻した大物政治家であり、且つ曹洞宗の僧籍を有する宗門僧侶であつた。

広川はその輝かしい政治歴を宗門にも還元すべく、時の管長より特命を受け四国の名刹である竜沢寺に住職（出身は福島県大安寺、後に千葉県信福寺にも住職）、政権与党の幹事長を務める傍ら大本山總持寺顧問にも就任し、宗門と政治の世界の橋渡し役を務めたという。

加えて社会教育にも力を注ぎ、学校法人青葉学園の理事長として女子の情操教育に挺身、私邸近くに「三宿さくら幼稚園」を開園し、園長として幼児教育にも尽力した。禅僧としての気概にも満ちており、元首相の福田赳夫（福田康夫首相の実父）などは、広川を偲ぶ追悼集にて次のように回想している。

広川は常に感謝の心を忘れない人であつ

た。以前、広川が縁の欠けた茶碗を使用していることを知つた支援者が、新しい茶碗を彼に贈ろうとしたところ、「この茶碗は戦災時に近所の人から譲り受けたもので、人に感謝する気持ちを忘れないために今でも使っているのだ」と述べたことを紹介し、

そうとう衆列伝

総理の座に最も近かつた曹洞宗僧



ひろかわこうぜん 広川弘禅

や支援者で賑わつていた想い出話などが綴られている。

また、昭和二十七年の高祖道元禪師七百回大遠忌の折には、その類まれな政治力を如何なく発揮し、福井市内から永平寺に至るまでの道路の拡張整備に辣腕を振り、今

揮できるかが評価の対象でもあり、その意味において広川は、周囲からの期待に十分応え続けてきた人情政治家とも言えよう。

当時の広川が、後に永平寺七十六世に晋住する秦慧玉禪師（当時の青葉学園校長）に対して「自分は徳も学も金も何もない。ただ禅寺に生育したこと。駒澤大学に学んだこと。道元禪師の法継であること。この三つは他のいかなる代議士にも異なる唯一の特長だ。自分はこの信念で一生政治をやる」と自らの政治信条を語つた事が伝えられている。

たとえ頭も剃らず衣を着ていなくとも、政治の世界から世直しを行い、その世直しを以て宗門に恩返しをしようと公言していた広川の政治姿勢とは、まさに仏教の精神をよすがにしていたと言つても過言ではなからう（文中敬称略、肩書き当時）。

参考資料

- 『追想の広川弘禅』（追想の広川弘禅）刊行委員会発行 一九六八年）
- 『小説吉田学校』（戸川猪佐武著 一九八一年）
- 『喧嘩はやめられない』（『大法輪』所収 広川弘禅 一九五九年）

文・秋 央文（あき えいぶん）

一九六九年（昭和四十四年）福島県生まれ。曹洞宗大本山永平寺にて約六年間の安居修行を経て、駒澤大学大学院人文科学研究所（仏教学専攻）博士後期課程満期退学。

元曹洞宗総合研究センター・宗学研究部門研究員、現在は曹洞宗委託研究員を拝命。第十五期全国曹洞宗青年会広報委員長、福島県昌建寺副住職。

画・山田 剛弥（やまだ たかひろ）

禅僧としての広川の気概に感銘を受けたことを述懐している。

その他、大臣の激務に追われながらも、毎朝三時半には起床し、自宅の仏間で欠かさず暁天・朝課を勤めていた秘話や、人情味あふれる性格で、いつも私邸には陳情団

でも駒大生の通学には欠かせない田園都市線（当時の新玉川線）の高架化に反対し、ついには全線地下路線化を成し遂げた逸話なども紹介されている。

高度成長期における政治家は、道路・鉄道など公共のインフラ整備にどれだけ力を発

環境問題のツボ

第1回 環境問題の現状とその捉え方

昨今テレビでも新聞でも「環境」の文字を見ない日はない。「環境問題」は世界中のキーワードであり、我が宗門でも「人権の擁護・平和の維持・環境の保全」として今年度の布教教化方針にその実践を謳っている。自然科学的・政治的・経済的などさまざまな切り口のあるこの環境問題に、我々宗侶はどのような視点から関わる事ができるだろうか？ 今号から数回に分けて、複数の執筆者に環境問題の現状を整理していただき、主に環境倫理学の視点から「環境問題のツボ」を学んでみたい。

現代の環境問題の象徴的テーマである地球温暖化問題を考える場合、大気中の温室効果ガス濃度や極域の氷の推移、海面上昇など、「自然システム」の問題として理解することができ。同時に、地球温暖化の問題は、我々の考え方や生き方、生活のあらゆる部分とつながった「社会システム」の問題としても捉えることができる。これまでの科学は、システムを構成する要素毎の理解は得意であったが、システム全体を理解することは苦手だった。しかし、近年のコンピュータシミュレーションの発達により、かなり正確にシステム全体を理解できるようになってきた。その結果、今後、地球温暖化がさらに進行することはほぼ間違いないとされている。だが、実際の気温が何年後に何℃上昇するのか？といった確定的な結論は得られていない。我々の考え方やライフスタイルの変化、更には温暖化

対策の有無とその規模、具体的な方法など、前提条件とするシナリオが多すぎるためだ。仮に、非常に効果的な温暖化対策を行うシナリオであったとしても、コンピュータシミュレーションの結果は、その効果が具体的に現れるのが二〇三〇年以降となることを示している。つまり、今後二十年程度は、どんなに環境負荷が少ない社会システムを構築したとしても、その効果を実感することは困難であると考えられる。

このことは、温暖化を前提とした社会システムを構築することの困難さを象徴的に表している。多くの人は、実害を受け被害を実感するまで、ことの深刻さから目をそらし、対策をとらない場合が多い。逆に対策をとれば、すぐにその効果を実感したがる。どんなに努力しても、目に見える形でその効果が現れるのは、二十年後だとすると、具体的な対策を行うためのモチベーションを維持できるのか？ また、我々の日常生活と、実感し難い地球環境問題の距離をどうやって縮め、その関係性をどうやって再構築すればよいのか？ 課題は多い。

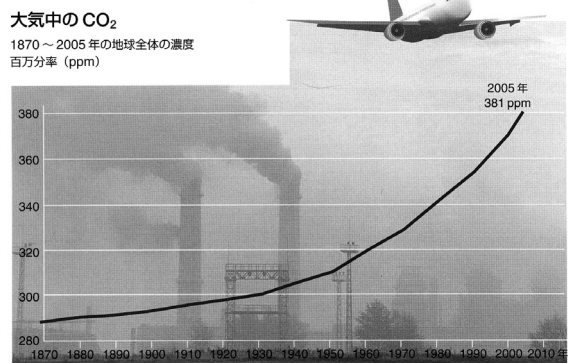
以下では、現在の環境問題を理解するために、最近のトピックスを時系列的にまとめ、我々が直面している現状と問題点を解説する。

① IPCC第四次報告書

IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change) 2007年十一月

Climate Change: 気候変動に関する政府間パネル)の第四次評価報告書がまとめられた。IPCCは、人為的な気候変動のリスクを各国の政策担当者に適切に伝えることを目的として一九八八年十一月に設置された政府間機構である。第三次評価報告書(二〇〇一年)からの最大の進歩は、地球温暖化に対して「疑う余地がなく、その原因が人間活動にあることを90%以上の確率で確信する」とほぼ断定した点にある。第四次評価報告書の要点を以下にまとめる。

〈第一次作業部会…気候変動に関する自然科学的根拠のポイント〉
環境保全と経済発展が両立する「持続発



大気中のCO₂量の推移 (『温暖化世界地図』丸善株式会社, 2007年, P.40)

展のシナリオ」の場合、地球全体の平均気温は約1.8℃(1.1℃～2.9℃)上昇し、海面上昇は約18cm～38cmと試算された。化石エネルギー源を重視する「経済発展優先のシナリオ」とした場合、約4.0℃(2.4℃～6.4℃)の平均気温の上昇と約26cm～59cmの海面上昇と試算された。

ただし、二〇三〇年までの地球の平均気温は十年あたり0.2℃の上昇にとどまるとされており、海面上昇に関してはグリーンランドや南極の氷が急激かつ大規模に融解することによる影響は考慮されていない。

〈第二次作業部会…気候変動に対する影響と適応策のポイント〉
地球温暖化による影響としては、氷河が融解することによる氷河湖の増加と拡大、永久凍土地域の地盤の不安定化、動植物の生息域・発芽・産卵行動の変化、海面上昇による海岸浸食、感染症リスクの増大等が指摘されている。

また、平均気温が1.5℃～2.5℃上昇することで、動植物種の絶滅リスクが20～30%増加、淡水資源の10～30%の減少、洪水リスクの増加が指摘されている。

〈第三次作業部会…温室効果ガスの排出抑制と緩和策のポイント〉
平均気温の上昇を2.4～2.8℃とした場合でも、遅くとも二〇二〇年までに世界の温室効果ガスの排出量を減少に転じさせ、二〇五〇年には二〇〇〇年より半減させる必要がある。それでも、世界全体のG

DPの損失は二〇三〇年時点で最大3%であると試算されている。

温室効果ガスの排出に対する具体的な緩和策としては、排出量取引や課税等の経済的措置や、風力発電等の再生可能エネルギーの普及と、温暖化対策として導入すべきか議論のある原子力の活用に重点を置く必要性が指摘されている。

②COP13

二〇〇七年十二月三日～十四日

インドネシア・バリ島でCOP13「国連気候変動枠組み条約第13回締約国会議 (Conference of Parties)」が開催された。京都議定書の枠組み以降の、温室効果ガス削減のための国際的枠組「ポスト京都議定書」に向けた行程表「パリ・ロードマップ」を作成し、各国が合意して閉幕した。しかし、COP13では、先進国や世界全体の排出量削減に関する具体的な数値の記載は見送られた。

③ダボス会議：二〇〇八年一月二十六日

福田首相は世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)において、温室効果ガスの排出量削減に関する具体的な数値目標として「国別総量目標」の策定(ポスト京都フ・レームワーク)を提案し、加えて「国際環境協力」、「イノベーション」の三つを柱とする「グローバル・アース推進構想」を発表した。

④洞爺湖サミット

二〇〇八年七月七日～九日

今夏、G8(主要8ヶ国首脳会議・洞爺湖サミット)が日本において開催される。ここでの主要議題は地球環境問題であり、議長国として日本がどのように世界に対して主導権を発揮できるかが問われている。日本は、省エネ技術や公害対策など、先進

的な環境対策についての豊富な経験と実績を有する。人類的課題である大幅な温室効果ガス排出削減を実現させる新しい社会システムと、そのための世界秩序の構築にむけて、日本がいかにリーダーシップを発揮できるか、注意深く見守る必要がある。

このように、二〇〇七年～二〇〇八年の世界の流れは、明らかに「環境」をキーワードとして、動きつつある。我々は、戦後の高度経済成長、バブル経済など、かつてない繁栄の時代を生きてきた。しかし、異常な右肩上がりの世の中が永遠に続くはずはなく、どこかで必ず調整される。何もせずに行き着くところまで行くと、再び戦争を行うのと同じ程度の社会資産の損失が予想されている。南北問題、食料問題、環境難民の問題などに端を発し、本場の戦争につながる可能性も否定できない。このように、地球環境の問題は、個人の安全・安心、そして幸福の問題も含む、人間の生きることそのものの問題を内包している。今私たちが、正しい情報に基づいて正しく判断する

こと、そして何より意識を変えることが求められている。

環境問題の捉え方

持続可能な社会の実現に向けて、私たち一人一人がどのように考え、行動すれば良いのか? このことを真剣に扱ってきた学問分野がある。それは、環境倫理学である。ここでは、環境倫理学の基礎的な考え方を紹介する。

環境倫理学では、従来の社会システムにおける法律や倫理の枠組みを越えて、以下に示す三つの主張が展開されている。

1. 地球の有限性・地球という有限空間では、原則としてすべての行為は他者への危害の可能性をもつので、すべては倫理的統制のもとにおかれる必要がある。
2. 世代間倫理・現在の世代には、未来の世代の生存条件を保証する責任がある。
3. 生物種保護・資源、環境、生物種、生態系など未来世代の利害に関係するものについては、人間は自己の現在の生活を犠牲にしても、保存の完全義務を負う。

また、環境倫理学では、我々にとってかけがえない自然の「保存」(preservation)と「保全」(conservation)を明確に分けて主張される。「保存」は、原生自然(wilderness)、つまり「手付かずの自然」をそのまま保持することとされている。「保全」は、人が手を加えつつ賢く利用することとされている。この両者は、欧米の環境倫理思想において、自然と人工、自然と文化、自然と人間(社会)といった二項対立図式の形で議論されてきた。

これに対して、日本独自の環境倫理思想として、「里山の環境倫理」がある。里山農用林としての二次林)は、田んぼやため池



安藤 生大(あんど たかお)

一九六八年生まれ、栃木県那須町出身。早稲田大学教育学部理学部地学専修卒業、早稲田大学理工学研究所資源工学専攻修了、博士(工学)。二年間の「J」に経営経験を有する。ここで、J問題、資源問題、エネルギー問題などに興味を持ち、静岡県富士工業技術センター技術等を経て現在、千葉科学大学危機管理学部准教授。専門は、地域環境学。「Q」にこそ普遍性がある」を座右の銘とし、社会リンク論やLCAの手法を用いた「社会システム設計」を行う新しい学問分野の開拓を目指している。

や畦などと一体をなして(里山農業環境)、結果的に生物多様性を維持する自然システムであると考えられている。つまり、里山は「手入れ」という自然と人間の関係を通して、結果的に高度の生物多様性を維持してきた。人の手が入った自然としての里山は、人と自然の関係性の総体であり、里山保全は人と自然の関係性の保全である。

里山の自然環境から遠く離れた都市に住む多くの人びとは、日常の生活と環境問題との関係性が「切れて」おり、そのために地球環境問題を実感しにくい。環境問題を実感するために、また人と自然の間の関係を回復するために、我々はどうにか考

今回は、自然と人間の関係性の回復をテーマとして、より専門的な環境倫理学の見地から、環境倫理思想について解説していただきます。



無常を観る瞑想

地橋 秀雄

原始仏教では悟りに到達する三つの道があり、修行者のタイプによって「無常」の相、「苦（ドウツカ）」の相、「無我」の相から存在の本質を洞察し、解脱するとされています。無常・苦・無我の「三特相」を随観することこそ原始仏教の根本であり、悟りへの道なのです。

では、例えば一番目の「無常」を洞察するとは、どのようなことをいうのでしょうか。また、どのような方法で無常を観ればよいのでしょうか。その鍵を握っているのは「ヴィパッサナー瞑想」という原始仏教の修道法です。



原始仏教では、存在を固定した実体ではなく、変滅していく現象の流れとしてとらえています。肉体も心も物も出来事もすべて一時的なものであり、今この瞬間に存在しているものは刹那に変化し、壊滅していくものだといわれています。一瞬の出来事や心の状態がはかなく変化するし滅していくのは誰にでもわかりますが、巨大な岩石や梵鐘などは悠久の時の流れのなかに存在し続けているかのようにも見え

ます。しかし、人間やハツカネズミの時間感覚では永遠のように感じられても、数千年、数百万年、数億年のタイムスケールで見れば、金属はポロポロに腐食し、岩石は原形をとどめないまでに崩壊してしまっているでしょう。海底に沈んだアンモナイトの化石が、ヒマラヤ山頂から出土するのですから。

形あるものは壊れていく。どのような「存在」も「変化のプロセス」でしかない……。私たちの住む現象の世界では、物質を構成している原子は一億個ぎつしり並べても一ミリにしかならず、原子を構成している素粒子はさらにその一〇万分の一の大きさで、生成と崩壊とが驚くべきスピードでくり返されているといえます。

このように、万物が無常であることは誰でも知っているのに、なぜ、瞑想の修行によって無常を観なければならぬのでしょうか？ そもそも、ヴィパッサナー瞑想とはどんな瞑想なのでしょう？

「止観」という言葉が示すように、ヴィパッサナー瞑想（観）は観察の瞑想であり、一点集中型のサマタ瞑想（止）と質的に異なります。観察モードと集中モードでは、意識の張り方がちがうのです。

サマタ瞑想では、瞑想対象にすべての注意を傾けて心を統一していきます。心を一点に集中させながら、瞑想者が瞑想対象とひとつに融合合う合一状態をめざします。この最終的な状態は「サマーディ（三昧・禅定）」と呼ばれ、瞑想対象に成りきってしまうので自他の分別がなくなります。サマタ瞑想の究極と言ってよいでしょう。

サマタ瞑想の対象が、イメージや同じ言葉のくり返しなど概念的なものにならざるを得ないのは、対象との合一をめざす仕事の性質上、避けがたいことでしょう。現実の世界では、瞑想者が音声や光や宇宙そのものと物理的に合一できるはずはないからです。サマーディが完成したときの定番表現である「私は光だった。光が私だった」

等々の合一体験は、あくまでも当人の脳内イメージとの融合感覚のことであり、客観的には、体が消えているわけでも何ワットかで光っているわけでもありません。

一方、ヴィパッサナー瞑想の対象は、心が仮作したイメージや言葉などいっさいの概念的なものを排除して、眼耳鼻舌身意の六門から入力される事実だけを対象とします。現象世界の本质を洞察する智慧の発現

をめざしているのです。

なぜ、そのような洞察が解脱の智慧に直結するのでしょうか。それは、洞察は真実の状態を目の当たりにする直接体験だからです。間接経験や知的理解では、人の心は変わらないのです。怒らないほうがよい、貪らないほうがよい、といくら知的に理解していても、現場では「わかっちゃいるけど、止められ」ません。無常について知っていることと、存在の無常性をダイレクトに知覚し体験することはちがうのです。

人の心を変えるのは、事実を視た衝撃です。自分自身の純粋な経験によって、真実の状態を直視する瞬間、心が無明の闇におおわれていたことに気づき、まちがったものの見方をしてきたことを思い知らされるのです。瞬間的な短い思考もふくめて、考えごとには人の心を変える力はありません。一時的な感動があるだけで、印象はすぐに色あせていくでしょう。

多くの瞑想者がハメられるのは、瞑想中の瞬間的な思考や自分自身の脳内情報に対してサマーディを起こしている状態です。集中の度合いに比例して対象の鮮明度は並はずれたものになります。概念世界（思考）から来るものと、真実相を直接体験するのとは、月とスッポンです。だから、いっさいの思考を排除して、法（ダンマ）としての事実を洞察しなければならぬ、とヴィパッサナー瞑想はなによりもこの点を重視しているのです。

さて、ヴィパッサナー瞑想では、無常の真理をどのように洞察するのでしようか。それは、現在の瞬間を捉える「サティ」という技法によつてです。例えば、体の感覚を感じた瞬間「感じた」、音が聞こえた瞬間「音」、思考が浮かんだ瞬間「雑念」と一瞬一瞬の事実を言葉で確認し随観していくのです。

今、この瞬間の現実に気づく心、自覚する心をパリ語で「サティ」と呼びます。現象↓サティ(気づき)↓現象↓サティ↓……の流れをキープすることが、ヴィパッサナー瞑想での「思考を止める」技術です。たんに思考のダンゴ状態にならないだけではなく、一瞬一瞬の事象を純粹観察している意識モードなのです。

サマーディの合一状態を究極と考える立場からは、言葉を使って認識確定の仕事をする瞑想に違和感を覚えるかもしれません。しかし、対象と融け合つて快感ホルモンのシャワーに浸つても「洞察の智慧」は発現しないのです。事象の本質を洞察する瞬間の認識が問題なのです。煩惱を破壊して悟りを開かせるのは智慧の力であるからこそ、ブッダは「戒↓定↓慧↓解脱」の公式を提示されたのです。

思考モードを離れば、入力情報が思い込みによつて歪んだり編集されたりする弊害が排除されるでしょう。これが、存在をありのままに観る「如実智見」の状態です。外界から入力される情報が正確に客観視されるので、「法を観る」とも表現されます。

法としての真相を直視する衝撃が、無明の闇を破るのです。無明とは、妄想によつて編集される我執の世界であり、煩惱が生まれる根本原因です。

このような洞察の智慧を得るには、「サティ」の力だけでは足りません。「サマーディ」の力と、事実を客観視する「サティ」の力が連動することによつて成立する「観察モードのサマーディ」が必須のものとなります。これを「瞬間定(カニカ・サマーディ)」と言います。対象と融合するほどに高められた集中力が、瞬間瞬間の現実の事象に注がれて「一瞬ごとのサマーディ」がブツブツにつながっていくからです。そのとき、驚くべき光景が目にとりやすくなります。

六門から心に飛び込んでくる「見えたもの」「聞こえたもの」「感じたもの」「思つたもの」……が次々と、恐るべき時系列のスピードで知覚され、次の瞬間には壊滅し、崩れ去っていくという連続状態です。気づきの言葉は自動的に脱落し、瞬間定が深まるとともに、知覚対象は一秒間に五個、七個、一〇個……と増大し、その一つひとつの生の瞬間と滅の瞬間の鮮明度がいや増しに増し、キラリとした輝きを残していくのです。経験される世界が瞬時に生起し、刹那に滅していく……という衝撃。安定した世界がゆるやかに美しく変化していくのであれば、今の状態を留めておきたいと執着する心が起きるかもしれない。しかし、

如実智見された世界には、執着できる固定したものなど何も存在しないのだという事実。欲望に向かう渴愛のエネルギーも怒りのエネルギーも、苦しい人生の元凶たる煩惱は、頭のなかだけに存在する妄想や妄念から生まれたものに過ぎない……。

このような無常の現実を視る意識状態を「生滅智」とも呼びます。「気づき↓観察↓洞察↓智慧の発現↓涅槃↓煩惱の滅尽↓解脱」という流れにしたがつて、煩惱に曇つた無明の状態から目覚めていくプロセスが「観の瞑想」です。刹那の生滅を無限にくり返している「存在の無常性」を洞察して彼岸に到達していく人々もいるのです。

地橋 秀雄 (ちはし・ひでお)

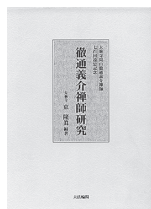


一九四八年生まれ。早稲田大学文学部卒。一九七八年より瞑想修行を始め、タイ、ミャンマー、スリランカ等で修行を重ねる。グリーンヒル瞑想研究所所長。朝日カルチャーセンター講師(「ブッダの瞑想法とその理論」)。グリーンヒルWeb会瞑想インストラクター。著書:「ブッダの瞑想法 ヴィパッサナー瞑想の理論と実践」・「人生の流れを変える瞑想クイック・マニュアル」(いずれも春秋社)。CDブック「瞬間のことば」(グリーンヒルWeb会出版など)。

東 隆真 編著
徹通義介禅師研究

大乘寺開山徹通義介禅師七百回記念
ともすれば誤解されたその生涯・功績を気鋭の学者十二氏が正した初めての本格的な論及書。

A5四七二頁
定価五四六〇円



川口高風 著

志は老いず

志を立て不断の努力を続ければ老いても衰えない」という講演のほか、著者六十年のエッセイ集。

四六判一八八頁
定価一二六〇円



水野弥穂子 著

『正法眼蔵』

袈裟功德』を読む

袈裟の大切さ・功德・縫い方等を説き、道元禅師の袈裟への信仰があふれた巻を訳と解説で紹介。四六判二三二頁
定価二二〇五円



大法輪閣 税込価格

〒一五〇〇一 東京都渋谷区東一五一一三六
TEL 03 (5466) 14001
FAX 03 (5466) 14008
郵便振替 001300・8・119
http://www.dahorin-kaku.com

!? あなたも選ばれる !?

「裁判員制度」のシステムをやさしく紹介

弁護士 見野 彰 信

二〇〇九年五月までに、運用が開始される裁判員制度。駅のポスターや新聞広告等で告知される一方、「裁判員を務めたくない」と考える人が七十二%に上るとの調査結果も公表されました（東京新聞二〇〇八年三月十六日付）。法衣を纏い、仏法を抛り所として生きている私たち僧侶は、仏法と世法の狭間で、この制度をどのように捉えればいいのか？ 裁判員制度が仏教者に提起する問題を三回にわたって検証していきます。

1 裁判員制度とは

裁判員制度とは、国民が裁判員として刑事裁判に参加し、被告人が有罪であるか否か、有罪の場合どのような刑にするのかを裁判官と協議して一緒に決める制度です。遅くとも平成二十一年五月までに、全国六十ヶ所の地方裁判所（都道府県庁所在地のほか、函館、旭川、釧路の地方裁判所本庁五十ヶ所、及び八王子、小田原などの地方裁判所支部十ヶ所）で裁判員制度がスタートします。

裁判員は、刑事裁判の審理に出席してさまざまな証拠を見聞きし、裁判官と対等に議論して、被告人が有罪か無罪か（被告人が犯罪を行ったことにつき「合理的な疑問を残さない程度の証明」がなされたかどうか）を判断します。「合理的な疑問」とは、国民の良識に基づく疑問であり、良識に照らして少しでも疑問が残るときは無罪、疑問の余地はないと確信したときのみ有罪

と判断することになります。有罪の場合には、さらに、法律に定められた範囲内で、どのような刑罰（死刑、無期懲役、有期懲役、禁固、罰金等）を宣告するかを決めます。

裁判員制度の対象となるのは、殺人罪、強盗致死傷罪、傷害致死傷罪、現住建造物等放火罪、身代金目的誘拐罪などの重大な犯罪の疑いで起訴された事件です。全国の地方裁判所における刑事事件総数のうち約3%が対象事件になるといわれています。また、原則として、裁判員六名と裁判官三名が一つの事件を担当します。ただし、被告人が事実を争っておらず、当事者（弁護士、被告人、検察官）に異議がなく、裁判所が適当と認めた場合は、裁判員四人、裁判官一人で審理をすることができます。

2 なぜ裁判員制度が導入されたのか

国民が刑事裁判に参加することにより、裁判が身近で分かりやすいものとなり、司法に対する国民の信頼の向上につながるこ

とが期待されていると言われています。本当に犯罪を行った人に対して適正な刑罰を科すことは、国民が安全に暮らすために必要なことです。しかし、誤って無実の人に刑罰を科してしまつたら、その市民の自由や権利は不当に奪われてしまい、その打撃は家族にまで及びます。ですから、人に刑罰を科す前に、本当にその人が犯罪を行ったことに間違いのないか慎重に判断する仕組みが必要です。市民が刑事裁判に参加する制度は、市民の自由や権利が不当に奪われることを防止するために、重要な役割を果たします。さまざまな経験や知識をもつた人たちが、その良識に照らして「疑問の余地はない」と確信して初めて有罪とする仕組みが市民の自由や権利を守ることになります。

国民の司法参加は、国民主権を實質化し、司法の国民的基盤を確立するためにも必要不可欠な制度です。国民の国民による国民のための裁判が実現することによって、司法に対する理解が深まり、信頼が高まることと期待されます。そのような目的のため裁判員制度が導入されました。

なお、市民が刑事裁判に参加する制度は、世界八十以上の国や地域で導入され、定着しています。G8参加国では、アメリカ・イギリス・カナダ・ロシアが陪審制度（陪審員が裁判官から独立して、事実の判断とそれに基づく有罪・無罪を決定する制度）が、イタリヤ・ドイツ・フランスが参審制度（裁判官と市民から選ばれた参審員が合議して裁判を行う制度。参審員は基本的に裁判官と同等の権利を有し、罪と刑を判断）と呼ばれる市民参加制度を採用して

います。日本でも、戦前の一九二八年に陪審制度が実施されましたが、一九四三年に戦時を理由に停止され、そのまま現在に至っていることはあまり知られていません。【次号に続く】

裁判員制度の対象となる事件

（代表的なもの）

- 1、人を殺した場合（殺人）
- 2、強盗が、人にけがをさせ、あるいは、死亡させてしまった場合（強盗致死傷）
- 3、人にけがをさせ、死亡させてしまった場合（傷害致死）
- 4、泥酔した状態で、自動車を運転して人をひき、死亡させてしまった場合（危険運転致死死）
- 5、人の住む家に放火した場合（現住建造物等放火）
- 6、身の代金を取る目的で、人を誘拐した場合（身の代金目的誘拐）
- 7、子供に食事を与えず、放置したため死亡してしまった場合（保護責任者遺棄致死）

【最高裁判所ホームページ (http://www.saibanin.courts.go.jp) より】

見野 彰 信 (けんの・あきのぶ)

一九七三年、札幌市生まれ。弁護士。早稲田大学法学部卒業。一九九七年、司法試験合格。二〇〇〇年四月に弁護士登録。民事・刑事・家事など法律問題一般を扱う。現在は札幌弁護士会に所属する。



お父さんから選ばれた

青岸寺寺族 永島 慧子

宗侶が描かれるまるい「一円相」と、寺族が描こうとしているまるい「一円相」とは外観は同じです。しかし、内容は全く違います。比丘・比丘尼の描かれる円相は、当然世俗を離れ、戒めを受けられた出家道が描き出される寺族が描こうとする円相は、聖と俗が入り混じった円相、お寺に住まわせたいただきながら住職との間に生まれた人の子の母親である俗世間が描き出されます。双方の一円相を重ね合わせた時、重なり合わない部分が「寺族問題」として、宗門においてもここ数年クロージアップされるようになってまいりました。

帰国され、曹洞宗を伝えられた出家道の精神に基づくものです。しかし、寺族の原点は、僧侶の結婚がかなり一般化した明治の終わりを出発点とし、住職と婚姻関係を結びお寺に住まわせたいただいている「世俗化されたみち」です。出発した基本となるところが異なるがゆえに、一円相の重なり合わない部分が出てくるのは当然のことでしょう。

「わたし、女の子でもよかったの？」
生家に月参りに来てくださったって、ご新造さん（坊守さん）の姿が目には焼きついていて私には、十八歳の女の子がいます。宗門の世界を知らずに結婚した私。この世に生を受けながら、両親の顔を知らず去ってしまった長男。わずか一日の短い命をよそに、元気に育った長女の「わたし、女の子でも良かったの？」のことは、生涯忘れられることはないでしょう。口に出して言ったわけでもないのに、なんとなく宗門の世界を感じるのです。

も女の子にも優しい環境にしてあげるのが、父親としての務めではないでしょうか。わが子のキラキラした眼を裏切ることができませんか？ 血を分けたわが子が、これから先も、今と同じ寺族環境に置かれようとしたら、どう、お感じになられますか。

「若き宗侶へのおねがい」
出家道にも拘らず、結婚が公認されて既に百三十五年という年月が経過しています。仏教はいつの時代でも、その時代の思想や国家法の変遷と共に歩んできていますが、今日の宗門が特に掲げなければならないことは、「変えられるもの」と「変えられないもの」の見極めを一層深めることにあるのではないのでしょうか。寺院家族（特に女の子しか恵まれない寺院）において、安心して生活できるような宗門にさせていただくことを心より切望いたします。

— 宗侶の美しさに魅せられて —

私は、まるい「一円」に何故か、心惹かれるものがあります。「私はこうです」と自己主張をしているはずなのに、尖った角のない穏やかな世界に安堵感を感じます。研ぎ澄まされた宗侶の美しさに魅せられ結婚し、寺族となった私。きれいに剃髪されたまるいお頭、大衣を身に纏った禅僧の姿は、世の多くの女性の心を虜にしていることでしょう。昨年の学術大会でお目文字させていただいた都内のある女子大生、車窓から眺める立派な構えのお寺は今の時代でも高嶺の花だという。

— 円相 —

目先のことにとらわれてしまった時、自分をとりもどす禅のことばに「円相」が紹介されています。（西東社刊『ぶつと心が癒される禅のことば』参照）

自分の気持ちをためこんで、ぐるっと丸い円を一口气で描くので「一円相」とも言われています。心の本来の姿を示すために描かれた円・絶対的な円でありながら、それを受け止める側は、そのときその時の心理状態により捉え方が変わってまいります。その広がり、世界に心が癒されます。

区内に於いても画期的なお取り計らいをいただきました。大阪リーガロイヤルホテルにおいて「曹洞宗近畿教区長会」の第四十三回総会が開催され、二部構成の研修（第一部「環境問題とライフスタイル」・第二部「寺族から見る寺族問題」）の場において「寺族の世界」に、耳を傾けてくださいました。寺族問題の専門家でもない私は、平成十七年からいただいたご縁の中で考えさせられた寺族のみにちを、次世代に生きたる寺族のために、一緒に考えていただきたく、いろいろな角度からお話をさせていただきました。

その中で、特に、明日の宗門を担われる若い宗侶の方がたに、腰を据えて考えていただきたいことは、「原点」の相違です。「原点」とは「そこから物事が出発した、基本となるところ」（三省堂刊『大辞林』参照）です。宗侶の方がたの原点は、鎌倉時代中頃（一二二七年）、高祖・道元禅師さまが宋より

しかし、ののさまが大好きだと言いつける彼女。思い余ってというのか責務の念に駆られ「もし、お母さんがお父さんと結婚していなかったら、あなたは……」ということばを口にしてしまったある日のことでした。こんなことばが返ってまいりました。「お母さん！ 私はお父さんを選んで生まれてきたのよ」と実に誇らしげに言うてはありませんか。男の子、女の子にしても、億単位の世界の中から私を選んでくれた、という教育を受けている現代っ子です。宗門の世界をどのように説明すればいいのでしょうか。「お父さんが私を選んでくれた」というわが子の眼の輝きこそ、今日の宗門への問いかけではないでしょうか。母親でありながら、わが子を守ることができない寺族のジレンマ。産道を通り、この世に命が誕生するまでの苦しみは、母親は無論、男の子でも女の子でも同じです。子どもの父親であるお父さん！ 少して

両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘嚴・神仏具・贈答用記念品

梅金商店 株式会社

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
(大須交差点東北側)
TEL (052) 241-0901(代表) FAX (052) 241-1904

* そうせいサロン

哆々和々

過日、故宮崎禅師様が御逝去なされまして、四月五日が御本葬の儀と相成りました。私が、初めて故宮崎禅師様にお会いした日は、永平寺に安居していた平成四年の秋でした。その当時、故宮崎禅師様は札幌の中央寺住職として、永平寺へ檀信徒の方達と参拝された時でした。お会いした際に仰られた「あんだ達がしっかりと修行しなければならん」。静かな、それでいて重い響きの声で、強い励ましの言葉をいただきました。それから、しばらく時は経りましたが、自分自身まだまだだなど、あらためてその時の思いを刻ませていただいております。百年という時をどう受け止めて良いのか、そう考えることすら途方に暮れてしまいそうですが、今自分達が出来ること、感じることを、思うこと、したいこと、そして、しなければならぬことを一つずつ行っていく。それらを実行することが、積み重ねる時間に他ならないのでしょうか。

仏様の、そして道元禅師様の教えに導かれ刻まれてきた歴史は、二人一人のかけがえのない思いが繋がって、大きな力となっています。思いきり、その流れに身をゆだねて、何事にも臆することなく試みていくことが命脈なのかも知れません。

全国曹洞宗青年会 会長 芳村 元悟

計報

第七期副会長 我妻耕道老師 御遷化

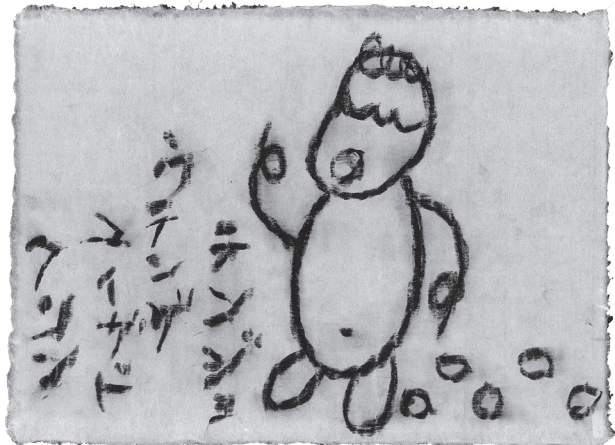
全曹青第七期副会長を務められました我妻耕道老師が、平成二十年一月五日(土)御遷化されました。行年六十歳。謹んで衷心より哀悼の意を献じ御報告申し上げます。尚、我妻耕道老師の計報記事は、『そうせい』一四二号にてご報告いたします。

合掌

編集後記

今回の一四一号『そうせい』では、イラストを描かせていただいた。第十七期『そうせい』の特集デザインや、挿し絵を提供されている宮沢のりさんは、その筋の専門の勉強をされているので、アドバイスをいただいた。挿し絵には色々な役割があるが、広報誌は、重要なキーワード、メインテーマなど強調したいポイントが、文章ではなくキャッチフレーズや小見出し、イラストのパワーを最大限に利用すると、誌面がスッキリ読みやすく魅力的になると。なるほど、納得である。その辺にも気を配り、レイアウトや挿し絵を入れたりすると檀家の方に親しみやすい寺報ができそうである。

委員 志保見 道一



読者の声

一休宗純の大掛絡を大変興味深く読んで、勉強になりました。

山形県第三 西光寺様

「そうせい」に対するご意見・ご感想、また、発送部数に関するご要望は左記の連絡先までお願いいたします。

○あて先

〒二七三〇八六五

千葉県船橋市夏見六二二三三 長福寺内

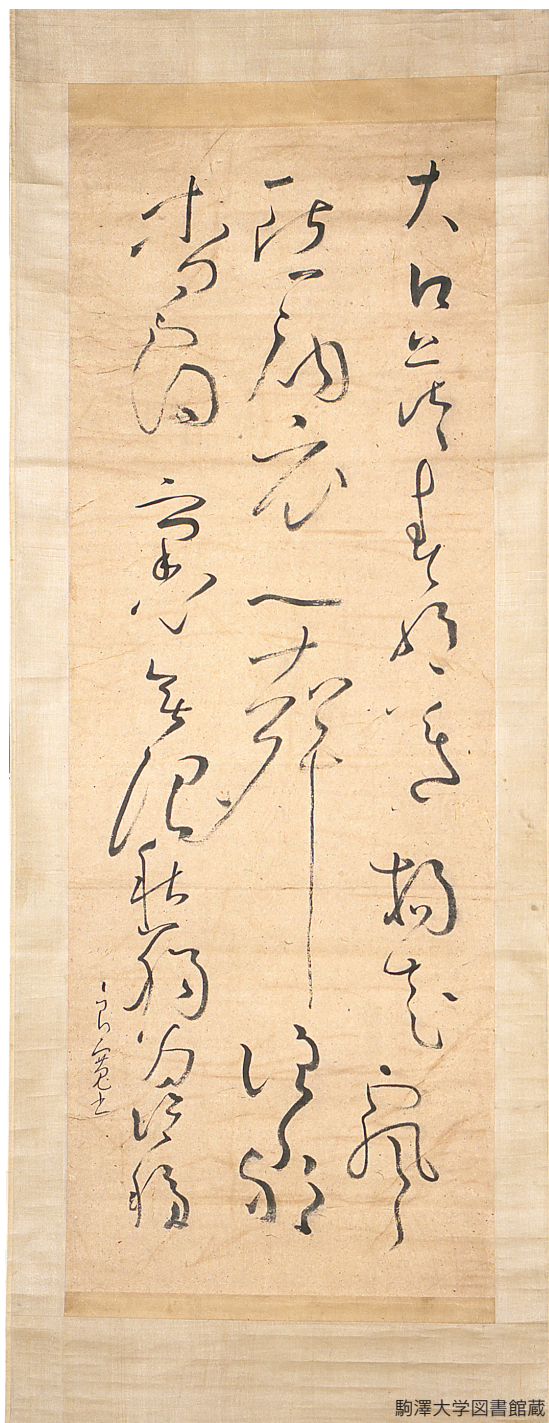
そうせいサロン係

FAX (〇四七) 四三六六八〇八 河村まで

ネットで愉しむ
禅籍サーフィン

収蔵品紹介

『大江茫茫』



駒澤大学図書館蔵

大愚良寛(一七五八—一八三二)は、現在の新潟県三島郡出雲崎町の出身。清貧にして無一物の生涯を送ったことで有名です。和歌のみならず、俳句、漢詩なども盛んにし、彼の手になると言われる書は数多く残っています。駒澤大学図書館が所蔵する良寛の書は『大江茫茫』と『やまたづの』の二点。今回は『大江茫茫』をご紹介します。

大江茫茫春将暮 楊花飄々
点衲衣 一声漁歌
杳靄裏 無限愁腸為誰移

良寛書

「たいこうぼうぼうとして はるまきにくれむとす
ようかひようひようとして のうえにてんず
いつせいりようか ようあいのうち
むげんのしゅうちょう たがためにうつさん」と
よめます。

本作品の大きさは、全体では縦191・2センチ横63・5センチ、本紙部

分は、縦134・2センチ、横が49・4センチです。さほど大きい物ではありませんが、それぞれの字は彼の詩歌の様な自由さが漂っています。

この詩は亡き友、有願に捧げたものであったようです。有願は現在の新潟県新潟市南区(旧白根市)新飯田に良寛よりも二十年ほど早く生まれました。彼もまた書画、詩歌に秀でており、良寛は随分影響を受けていたようです。桃の花がほころぶ頃になると、良寛は有願の円通庵をたずね、詩歌を作つてあそび、盃を交わしたと言います。

ここにあらわれる大江とは中之口川(信濃川の支流)のことであると考えられます。春ともなれば川は、雪解けの水をふくんで滔々とながれ、柳の花びらは、はらはらと散り、思いおこせば晩春の過ぎゆく様と重ね合わせ、いっそう淋しさをよびおこします。

また後半部では、深い靄のむこうで漁師(船頭)の聲が聞こえる情景は、その後の「無限愁腸為誰移」におよんで、有願を亡くした悲しさ、無情にも足早に去りゆき、再び手の届かない美しい春に対する気持を言い表すことが出来ずに煩悶する良寛がいます。ここに、有願との深い親交をうかがい知ることが出来ます。(詩の構成も巧みでさまざまに対比が用いられ効果は絶大。「大江」(楊花(柳の花))「川の流れ(横)」「花の舞い散るさま(縦)」「無願」等)また、今回ご紹介した詩のみならず、例えば、

「再び田面庵に到る／去年三月江上の路
／行く行く桃花を見て／君が家に到る／経
再び来れば君見えす／桃花旧に依つて正に
霞みの如し」

といった有願を偲ぶ歌は、良寛にとつて有願との交わりが、いかに大切であったかということをあらわしています。

実際に画面で見えますと、そのまま良寛の内面をうつしだしているかの如く、墨の濃淡やかすが手に取るように感じ取れます。こころゆくまでご堪能ください。

『駒澤大学電子図書館』

URL <http://www.komazawa-u.ac.jp/>

toshokan/el/index.html

その名を呼べばこたえてし
笑顔の声はありありと
今なお耳にあるものを
おもいは胸にせきあげて
とどむるすべをいかにせん
溢るるものは涙のみ

梅花流詠歌「追弔御和讃」第一番の歌詞である。ご葬儀等の折、この曲をお唱えする機会が多いと思う。私はお通夜の席でしばしば唱えさせていた。しかし、そこに集まった方がたの悲痛な表情、ご遺体に触れて涙する姿を見ると、喉が詰まってしまい、なかなか納得のいくお唱えができない。私たちが宗侶は常日頃、檀信徒さんの他界後に枕経、通夜、火葬、葬儀というプロセスの中で、故人のご家族・ご親族、あるいはご縁のあった方がたと接する。そして形式に従い、儀礼を執行していく。

月命日に必ずご供養に伺っている信徒さんの中で「一周忌を過ぎててもなお、納骨する気持ちになれない」「死後五年以上過ぎているのに」いまだに墓参に行けない」という方が居る。世間話には花を咲かせることができるのだが、大切な部分には手を差し伸べることができていない。今もなお、その状態が続いており、わが無力さを痛感している。「儀礼の執行」のみでは癒されない遺族の苦痛。それを証明しているのかのように思える。

そのような現場に居る私は、私たち宗侶は、ご遺族とどう関われば、ご遺族の苦痛に寄り添い、苦しみから安楽へ導くことができるのか。どんな言葉がけをしたら良いのか。今回は「遺族外来」を開いておられる大西秀樹医師よりご指南いただいた。

あまんず 恵道

あまんずの③「遺族外来」のある病院 前編

今回「あまんず」飯島は、「遺族外来」を設置して死別したご遺族へのケアに取り組む埼玉医科大学の大西秀樹教授の元を訪れました。医師と僧侶が語る「現代の死」の周辺にある問題とは？

埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科教授

大西 秀樹 × 飯島 恵道
おおにしひで き いいじま けい どう

1960年、兵庫県生まれ。横浜市立大学医学部卒。神奈川県立がんセンター精神科などを経て、平成18年より埼玉医科大学精神腫瘍科教授となり、翌年より現職。専門は精神腫瘍学、老年精神学、緩和医療学、リエゾン精神医学、死生学。日本サイコオンコロジー学会常任世話人。

長野県松本生まれ。尼寺育ち。看護師としての経験を生かし、医療と宗教の領域を横断する「あまんず(amans=ama(尼)+ns(ナース、看護師))」として活動中。



遺族が直面する苦悩

飯島 先生は「遺族外来」で、家族ケアに取り組んでいらつしやいますね。
大西 それを中心課題ですね。患者さんとそのご家族・ご遺族は、切っても切りはなせない一単位と考えています。

飯島 家族が病んでいると、看病しているものは自分の時間を取られるという現実にあつて、そこで自分を追い込んでイライラしたりする。それは仕方ないことだと思えます。僧侶の仕事はご家族・ご遺族と接することが多いのですが、大切な方を亡くされた後のご遺族に気持ちを知らせて臨めば、もつと良い関わりが出来るんではないかと思っています。そこで、私たち僧侶と同じプロセスでご遺族に関わっている先生のお話を伺いたいと思えました。患者さんの主な訴えは何ですか？

大西 まず、死別の悲しみが一番ですけれども、どこに相談しにいったら良いのか分

からなかったというのが多いですね。あとはトラブルの相談も多い。

飯島 トラブルですか？

大西 葬儀の後つて、親族間や周りの人とのトラブルが多くなりがちです。これはたいへんだなと思つたのは、多分お坊さんも経験していると思いますが、親族間と同じお寺、同じお坊さんで別々に法事をやるケースですね。「お坊さんみたいへんだな」と思いながら見てました、実は(笑)。そういつたトラブルは患者さんの死後急に現れてきて、ご遺族はそれで戸惑う場合があります。だから遺族外来では悲しみを聞くよりも、まずトラブルに対応をします。それが解決した後に漸く喪に服す状態になってきます。遺族外来のコツはそれかな、つて思っているんです。

あまんずも体験した「外野の言葉」

飯島 私も昨年、東堂を送りました。主に世話をしたのが七十代の住職なんですけれども、やはり後悔ばかりというか、あれもしてあげれば良かったとか色々出てきてしまつて。でも、一生懸命介護したにも関わらず、どこからか「私たちが(東堂を)虐待していた」とかいう話が出て。「何で他人にこんなこと言われなきゃいけないのかな」つて、ひどく落ち込んだ時期がありました。家族だから、多少は言い合いますことくらいありますよ。

大西 それも遺族外来のテーマの一つで、自分のしたケアは、もしかしたら亡くなった人に対して良くなかつたんじゃないか、つて後悔がすごく多いんです。私は医者としてその話を聞いて、特に問題がなけ



埼玉医科大学国際医療センター
〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1
電話 042-984-4111(番号案内)
<http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/index.html>

死別したご遺族の六人に一人はうつになるんです。(大西)

社会はもつとご遺族の悲しみを理解しなければいけませんね。(飯島)

れば「問題ないですよ」ってしつかり患者さんに伝えます。これはすごく大事なことです。私は「外野」って言うてるんですけども、ご遺族はその外野の人たちの意見に困らされるんですよ。お線香を上げに来た人に「お前のせいで死んだんだ」って

言われた方がいます。ひどいですよね。本来守られなければいけないご遺族に対して、罵倒するような言葉を投げつける人がいます。それから、よく自分の都合を優先する人がいますよね。葬儀の席順が後ろだったから謝罪に來い、とかね(笑)。あと花輪の位置が外だったとか。自分の見栄が優先してご遺族を貶める言葉を使う。今、ご遺族から聞いているのは、医療関係者や外野の人に何を言われて嫌だったか。そうするといっぱい出てくる。それを元に「(ご遺族に) 言っただけじゃない言葉集」を作らなければいけないと思ってるくらい(笑)。

飯島 私の所にも、お坊さんがお葬式の時こんなことを言ったから落ち込んだ、っていうご遺族の相談が持ち込まれます。やっぱり私たちも気をつけないといけないんだけど、社会全体として遺族への理解が進まなければいけませんね。

大西 その通りです。社会全体でご遺族を労い、保護しなければいけません。「ご遺族は悲しいものなんだよ」「死別とはつらい体験なんだよ」っていうことを分らない

ければいけない。

ポストベンション(後治療)の必要性

大西 病院は患者さんが亡くなればそこで関係が終わり、というのが普通でした。我々

もそこを反省しなければいけないと思って活動しています。遺族外来の活動の特徴は精神疾患の早期発見です。何故かと言えば、死別後はご遺族にうつ病がすごく多いんです。一年有病率が十五パーセント、六人に一人はうつになつて

一人はうつになつて

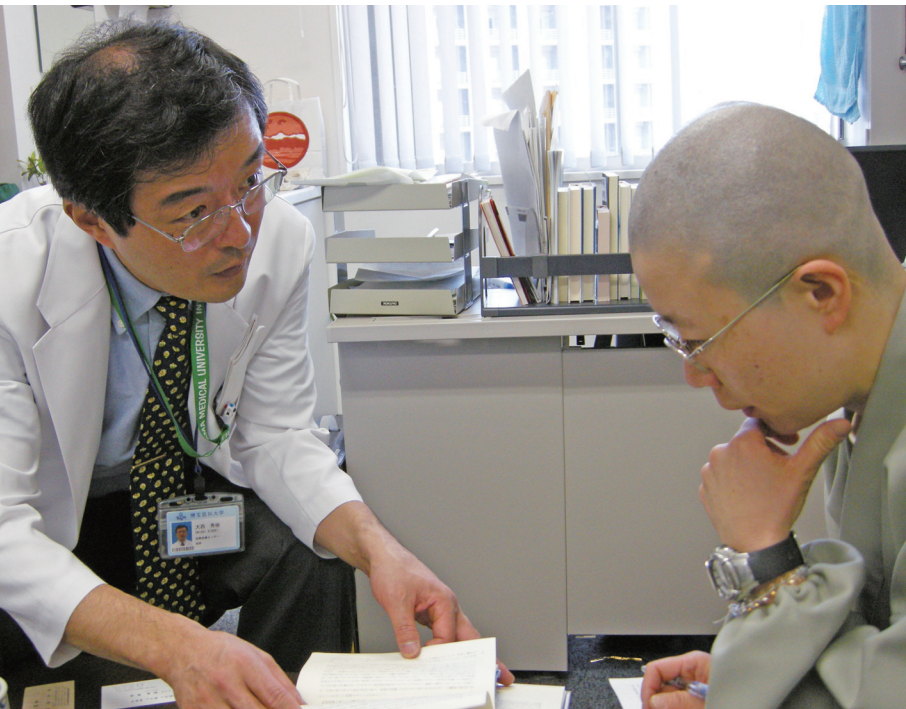
来てですね。ご遺族が外来で突然「先生、電車が飛び込む道具に見えるんですけど」と言い出したので診察したところ、うつ病になつていたので、直ちに治療を開始したことがあります。ご遺族のうつ病治療・自殺予防できるのは遺族外来のメリツトの一つですね。やはり「第二の死」を防ぐためにも、ご遺族の問題に我々精神科医が取り組んでいかなければいけないかなと思つています。ポストベンション(後治療)って概念がありますが、宗教関係者がやるのもこれと同じではないでしょうか。治療と言つても別に医療者だけ

じゃなく宗教者もやるべきだと、(エドウィン) シュナイドマン(※)は唱えています。これは三十年前の本でそう言っているんですよ。

飯島 三十年前ですか(驚)。なかなか進んでこなかった領域なんです。何故でしょうか？

大西 私は、社会が右肩上がりだったからじゃないかと思つています。死が隠されるようになったじゃないですか。経済発展の間は、我々精神科医やお坊さんはちよつと脇にいた存在ですよ、どちらかというと(笑)。今でも遺族外来の活動が、医療の世界で十分に浸透しているとは言えきれません。確かに、遺族外来は収益性を考えるとそんなに良いわけじゃないんですよ。でも、医者自身も死は死にます。その時に今まで自分がしてきた医療を自分がされたいかどうか、考えれば分ると思うんです。我々自身も常に死を考えてないといけないんですよ。死生観がないとね。治療ばかりでは、それこそ右肩上がりと同じですから。

飯島 やはり大切なのは、患者側の立場に立つて考るとか、私たちがあれば檀信徒側の立場に立つて考るとか、ということですね。(続く)



※ Edwin S. Shneidman 一九一八年生まれ、心理学博士。死生学の権威で、一九五〇年にロサンゼルス自殺予防センターを共同設立し、所長を務める。その後、国立精神保健研究所および自殺予防研究センターの主任等を歴任。一九六八年に全米自殺予防学会を設立する。現在、カリフォルニア大学(UCLA)の名誉教授。

曹洞宗の袈裟に学ぶ

第5回

肖像画よりみた掛絡

愛知学院大学教授 川口高風

肖像画の掛絡の特徴

鎌倉期の肖像画として頂相がある。頂相は禅僧の肖像で頂（頭部）の相貌の意味である。伝法の証明として師の頂相が弟子に付与され、命日などに掛けて供養された。

頂相の影響は禅に帰依した俗人の肖像画にも及んでおり、南北朝期頃から室町期には天皇、公家、将軍、武將、夫人像なども登場した。桃山期から江戸初期にかけては天下統一へ向う戦国武將とその家族の婦人や子どもの肖像画なども生まれた。その後は文人や芸術家などの肖像画も盛んに作られた。

肖像画には僧形になつている公家や武將、夫人の姿がみえる。それらは分類の方法として法体像と称されており、今日伝わるものでは十二世紀末の後白河法皇像（京都・妙法院蔵）が最も早く、武將像としては北条実時（鎌倉・称名寺蔵）を先駆としている。実際に剃髪し入道したため法衣姿に袈裟を搭けている。

しかし、戦国期以降の肖像画には入道したものの剃髪していない人、偏袒右肩の袈裟を搭けずに掛絡を搭けた人などの肖像も出てきた。僧形ではあるものの、生活は武

將であつたため贖罪の意味が背景にあつたものと思われる。

これらの肖像を比較すると、外観は酷似しているが、持ち物は異なっている。僧侶は竹篋、警策、弘子が一般的で、数珠を持っている場合もある。それに対し、武將らは扇子や腰刀、あるいは脇に添えられた太刀や弓が描かれており、武家であることを示している。

肖像画は当時の掛絡の大きさや形態、搭け方を知ることのできる貴重な資料になる。図録などから肖像画をピックアップして分類すると、掛絡の田相が大きいものと小さいもの、棹の幅が太いものと細いものに分けられる。田相の大きいものは鎌倉・円覚寺蔵の大絡子や一休宗純（一三九四—一四八一）の大掛絡のように左右からタック（ひだ）が施されており、腹部から下半身に搭けられて三輪（臍から両膝）をおおっている。

田相の小さいものは現在の曹洞宗で用いられている縦三十三センチほど、横二十五センチほどの絡子と同じものと思われ、胸部の前に搭けている。

田相の大きいものは、

(一) 環のついている内側の棹の幅が外側より細いもの

(二) 内側の棹の幅が外側と同じ幅のもの
(三) 棹の幅が内側、外側ともに細いもの
田相の小さいものは、

(四) 棹の幅が内側、外側ともに細いものとなる。

掛絡の特徴から分類できた武將像

肖像画の掛絡の特徴から四種に分類できた武將像をあげてみると、

- (一) 足利義教(図1)、穴山信友、同夫人、大中臣元実、大友宗麟(図2)、嶋井宗室、温井孝宗、細川高国
- (二) 赤星親隆(図3)、奥村永福、同夫人、黒田長政、高橋紹運、立花道雪、武田信虎

- (三) 北畠政勝(図4)、玉室宗珙大姉
- (四) 浅井長政(図5)、佐野昌綱、長尾憲長、鍋島直之、松井雲江

となるが、田相は小さく、棹は環のついた外側の一本のみの掛絡もある。それを武田信玄が搭けている。(図6)

ここにあげた以外にも掛絡を搭けた公家や武將の肖像画をみることができ、足利義教(？—一四四一)像は一休宗純の大

株式会社
中央デザイン
CHUO DESIGN CO.,LTD.

Desktop publishing
Print Industry

〒001-0010 札幌市北区北10条西4丁目 防災ビルB1
TEL (011) 716-4813
FAX (011) 716-4818
chuou-design@bz01.plala.or.jp

寺社御尊像制作
日本仏教美術普及協会御指定
総本山智積院御用達

鴻珠堂

〒963-0101 福島県郡山市安積町日出山旧屋敷13-1
TEL: 024-945-4801
営業所: 東京・京都・台北
工房(彫刻・荘厳・念珠): 鴻珠堂有限公司
台北市中山北路二段七七巷十一號
桧材(樹齡500年以上)老山檀香材洗香



図4 北畠政勝像
(三重・浄眼寺蔵)



図3 赤星親隆像
(個人蔵)



図2 大友宗麟像
(京都・瑞峯院蔵)



図1 足利義教像
(京都・法観寺蔵)



図7 前田利春像
(石川・長齡寺蔵)



図6 武田信玄騎馬像
(山梨・恵林寺信玄公宝物館蔵)



図5 浅井長政像
(滋賀・小谷城址保勝会蔵)

掛絡をかけた姿と同じである。すなわち外側の棹が長い内側の棹で田相をつるし、外側は飾りのようになって腹部から三輪をおおっている。

その後百年を経た頃の武田信玄(一五二一—一七三三)、浅井長政(一五四五—一七三三)、佐野昌綱(一五三〇—一七四四)、大友宗麟(一五三〇—一八七〇)らの像は、外側と内側の二本の棹が短くなり、田相は胸前にある。その間に成ったと思われる北畠政勝(入道号・無外逸法)の肖像画は、外側の棹が内側に比べると少し長く、田相を胸前につるしている。同じような形態の掛絡は武田信虎(一四九四—一五七四)や赤星親隆(一五三二—一六一九)らがかけている。
肖像画が教えてくれていること

掛絡をかけた肖像画をさがしていたところ、守持衣と称される袈裟をかけた画像を見出した。それは金沢藩前田利家の父である前田利春(一五一六—一五六〇)像で、石川県七尾市の曹洞宗長齡寺に所蔵する(図7)。長齡寺は天正九年(一五八二)、前田利家が能登に入った際、越前国高瀬の宝円寺の大透圭徐(たいしゅうけい)を招き七尾に宝円寺を建てた。同十一年に利家が金沢へ移った際にも大透を伴い宝円寺が建てられたが、文禄三年(一五九四)に大透は七尾に戻り、寺号を利家の母の法号にちなんで長齡寺と改めた。像主の利春は通称を縫殿助(ぬいどのすけ)といひ、尾張国荒子(あらかこ)に二千貫の地を領し永禄三年(一五六〇)七月十三日に没した。
画像は剃髪した利春が顔を傾け、右斜め上方にある雲を見上げ、薄茶色の小袖に黒紗の法衣を着て守持衣をかけた法体像である。

これこそが氷見市の光禪寺に所蔵する明峰素哲(一三七七—一三五〇)の守持衣をかけた姿になるのではなからうか。光禪寺の守持衣(九条、縦三十五センチ、横九十八センチ)は、裏書きによれば開山の明峰が着用していたもので、それを前田利家の嫡男利長の妻永(織田信長の四女)が寄附したという。

拙稿(第2回)で考察したように、守持衣は本来、五条であったが七条や九条も存在する。しかし、掛け方は不詳であった。それが永の義祖父にあたる前田利春の画像によって、左肩に紐のような棹をかけて三輪をおおう掛け方であることが明らかになった。また、同じような掛け方は平敦盛を討つて功を立てたが、後に法然の門に入った熊谷蓮生房(一一四一—一二〇八)の画像(京都・金戒光明寺蔵)や和歌、連歌、書などに長じた三条西実隆(一四五五—一五三七)の画像(京都・二尊院蔵)にもみえ、それらは五条の守持衣と思われる。

肖像画が像主の存命中に描かれた寿像であったか没後の遺像であったかは各々考察されているが、何れにしても像主と近い時代に描かれたものとみなされている。そのため戦国期の掛絡や守持衣の様子が肖像画より明らかになる。

肖像画の掛絡は大掛絡から小さな絡子ともいえるものもみえるが、すべて首から前にかけている。しかも必ず環がついている。それに対し守持衣は、左肩から右脇下へ長くつり下げて三輪をおおうものであったことを肖像画が教えてくれているのである。

ほとけさまの知恵袋

【子ども用腕輪念珠】



【名札付お経カード】



中面



裏



【参加バッジ】



使い方 いろいろ

- 子ども緑陰禅、日曜学校、子ども参禅会などの活動の折に
- 子ども授戒会の血脈袋として（儀式中に掛け血脈を懐に抱く）
- お守り・写経・写入れとして
- お寺の法事など諸行事に（本堂備えつけ）
- 弟子との勤行に
- 首掛け名札プレートとして
- 幼稚園・保育園児に（諸行事）

全曹青では、青少年への教化活動をより内容のあるものにしていただくために、かねてより再販の問合せが多かった「ほとけさまの知恵袋」を製作しました。
つきましては左記の内容にて実費頒布いたしますので、ご希望の方は左記の要領にてお申し込みください。

●価格

1本 1,000円
（子供用腕輪念珠・名札付お経カード・参加バッジ・箱入り）

●お申し込み方法

郵送・FAX・E・MAILいずれかの方法にてお申し込みください。

●お申し込み先

〒994-0022
山形県天童市貫津15ノ1
昌林寺内
山澤 顕雄（総務委員）
【FAX】023-653-5839
受付時間は《9時〜16時》
【E・MAIL】
chie@sousei.gr.jp
または全曹青HP申し込みフォームより

●お申し込み期限

在庫が無くなり次第頒布を終了いたします。

●お届け方法

5月1日より順次、着払いにてお届けします。

ほとけさまの知恵袋申込書

宗務所名		寺籍番号		寺院名	
名前		電話番号		申込数	本
ご住所	(〒 -)				